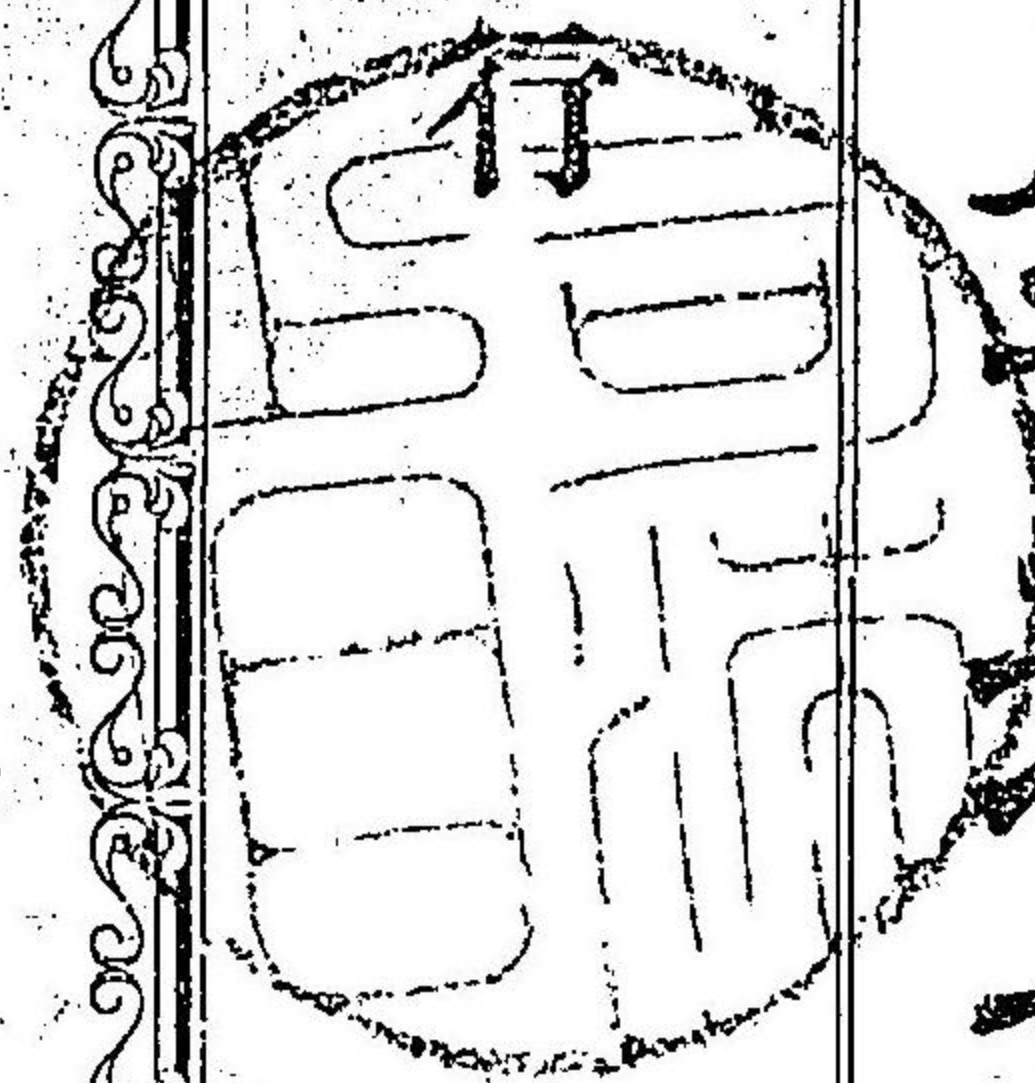


版
司
法
部
藏
版

大
審
院
民
事
判
決
錄

明
治
十
二
年
十
一
月
印



CZ
2811
10

~~CZ~~
2814
01

大審院民事判決錄 明治十二年 五月

目錄

第七十七號	地所不實一件	初八丁
第七十八號	家督相續差拒一件	四七丁
第七十九號	預地所并德米取戻一件	八四丁
第八十號	復籍一件	二二丁
第八十一號	貸金催促一件	一四四丁
第八十二號	賣掛殘金淹滯一件	一五五丁
第八十三號	入會秣場實地立會取調一件	一九二丁
第八十四號	約定金催促追訴一件	二二三丁
第八十五號	貸金催促一件	二六三丁
第八十六號	地所差違一件	二八九丁

- 二 第八十七號 組合野山差妨一件 三三六丁
- 第八十八號 質地受戻一件 四二六丁
- 第八十九號 貸金催促追訴一件 四七四丁
- 第九十號 讓受地并預地引渡一件 四九七丁
- 第九十一號 貸金催促一件 五二九丁
- 第九十二號 對談違約一件 同丁
- 第九十三號 貸金催促一件 五七四丁
- 第九十四號 新溝敷圖面取消一件 五九五丁
- 第九十五號 持出砂石取除一件 六三九丁
- 第九十六號 糸貫川水行障害一件 六六〇丁
- 第九十七號 炭焚小屋取拂一件 六八八丁
- 第九十八號 草山地券申受拒障一件 七六八丁

大審院民事判決錄 明治十二年 五月

第七拾七號

○地所不實宮城上等裁判所裁判不法上告ノ判文 明治十一年三月六日上告明
治十二年五月五日申渡

山形縣下羽前國最上郡
五日市村平民

原告 齋藤勘右衛門

同縣下同國同郡同村平
民高橋雄助代人同人妻

被告 高橋コソ

宮城上等裁判所ノ審判

原告代人 高橋コソ控訴ノ要領 明治九年十一月十五日

本訴八筆ノ耕地ハ被告亡祖父齋藤勘右衛門舊所持地ナリシヲ去ル
 天保七年中同人於テ該地ノ貢租三ヶ年分滞納セシニ付當時村吏ノ
 扱ヲ以原告亡父高橋勘五郎ヨリ相納メ外ニ涙金三圓ヲ被告ヘ遣シ
 該地ハ原告ヘ譲リ受ケタリ其節土書並ニ讓渡添証書及ヒ舊領主代
 官聞届ノ書面共受取置キタル處明治元年七月戰爭ノ砌右讓渡証書
 並ニ領主代官聞届ノ書面ハ燒失シ左ノ土書ノミ存在セリ

覺

さとの川拾四束四把蒔

蓮城坊田

一中田貳畝貳拾貳步

盛 十六

栗明百蒔

一中田八畝八步

同 十六

同所起返步

同所起返步

一下々田八畝九步

同 十二

内壹畝拾步

延寶八申引

内壹畝貳拾貳步

同九酉引

内貳畝拾六步

天和戌引

横内三十蒔

一中田壹反六畝拾六步

同 十六

的場三百蒔

一苗代五畝步

同 十八

同所右ノ内

一上田三反七畝七步

同 十七

仁間界深田百蒔

一中田貳反貳畝拾七步

同 十六

四

仁間界百四十疇
一中田七畝四步

同十六

〆壹町七畝貳拾三步

本田

内五畝貳拾步

永引

殘壹町貳畝三步

右ハ此度御改メニ付其元抱地被仰付申候右帳而ノ通土書相渡申候以上

南木主名主

寶曆十三未年三月

中鉢儀右衛門印

馬喰町

野崎善右衛門印

勘右衛門殿

右土書ハ世間ノ沽券狀ト同一ノモノニテ宛名勘右衛門トアルヲ其儘原告ニ於テ所持シタル所以ハ寶曆十三年舊領主檢地繩受領内一般改正シタル節ノ土書ニテ從來地所賣買制禁ニ付地所讓渡ス節ハ其土書ニ讓渡証書相添ヘ村吏ノ奥印ヲ受ケ領主代官聞届ノ書面ヲ添テ地所引渡ヲナシ土書所持セルモノヲ以テ地所々有主タルヲ証スル一般ノ習慣ナリ依テ被告宛名ノ儘原告ニ於テ所持セリ其以來貢租高掛リ等モ原告並ニ原告ヨリ扣作相任セタル者ヨリ直ニ貢納シ來リ全ク原告自己ノ貢納ト心得タリ然ルニ貢租上納帳被告名前ニ記載有之ハ土書名前勘右衛門トアルニヨリ被告名前其儘ニ相成居ル義ニテ其小譯ニ原告名前記載アルハ事實貢租上納スヘキノ義務アル故ニテ其他ノ名前記載シアルハ貢納ノ義務アルモノニハ之レナクナレモ原告ヨリ扣作爲致タル節貢租爲相任實際其者共ヨリ

五

直ニ貢納セシ砌リ記載セシモノニテ全ク從前疎漏ノ仕來ナリ而シテ該地讓渡シテナシタル節何等ノ約定モ無之加之讓受ケテナシタル天保七年來四十年間地所並ニ貢租等ノ儀ニ付テモ被告ニ於テ一切關係セシヲ無之既ニ字二間塚二筆ノ地所ノ如キハ天保七年地所讓受タル節原告ノ自由ヲ以テ福田村高山郡兵衛ナル者へ扣作為致貢租其他一切爲任置タリ尤モ扣作証ハ取置カサレモ明治八年七月ニ至リ其由來ヲ証明センカ爲メ左ノ一札ヲ取置キタリ

証文

字二間塚

一田四百疔

右者四十二三年此方ヨリ後二十年以前迄凡二十年計リノ間手作仕來候處相違無御座候右田地ノ儀ハ私祖父世帶ノ節南御藏ヨリ

扣作仕候處土書高橋勘五郎へ相渡候ニ付其節新ニ斷リテ受ケ候由申傳候依テ証書一札如件

福田村

明治八年亥七月

高山郡兵衛

高橋雄助殿

如斯該地ハ原告カ自由ニ進退セシテ証スルニ足ルヘシ且又先般地租改正調ニ付甲地丈量ノ節モ原告ニテ立會被告於テハ曾テ關係セズ前顯ノ如クナルヲ以テ原告カ所有地タルハ素ヨリ判然タリ然ルニ被告於テ勝手ニ鐵入致シ捨置キ難ク明治八年五月中山形縣舊裁判所へ出訴及ヒシニ原告於テ土書所持スルモ被告ノ名宛ニシテ被告ヨリ讓受タルトシテ証之レナシ且被告ノ名義ヲ以テ貢納イタシ來ル上ハ被告ノ所有ト可心得旨裁判相成タルハ不服ナリ依テ今般覆

審アテントチ乞

被告代人 齋藤千代野答辨ノ要領

論地ハ寶曆十三年土書受取タル以來被告所有地タリシチ被告亡祖
父齋藤勘右衛門代自分耕作充分ナラサルニ付原告亡父高橋勘五郎
ハ年來被告方へ出入シ召仕同様ノ者ニ付作徳米ハ不受取且扣作証
文及ヒ約定書等モ取置カサレヒ一ケ年間八十日ツ、被告方へ農事
手傳致スノ約定ニテ去ル天保七年中扣作爲致右ノ内字二間塚ノ二
筆ハ勘五郎ノ勝手ヲ以テ福田村高山郡兵衛ナル者へ又小作爲致置
キタル處其後高山郡兵衛於テ耕作不行届ナルニ付當時村吏ノ取計
ヲ以テ高山林七ナル者へ小作爲致アリシチ明治八年五月中被告於
テ更ニ長澤喜平ナル者へ小作爲致タリ其前天保年間貢租滞納セシ
トアレヒ當時村吏ノ扱ヒチ以テ被告屋鋪地賣拂淹滞ノ貢租完納セ

シニ付原告ヨリ被告滞納ノ貢租相納メ外ニ涙金等被告ニ於テ請取
該地所チ原告へ讓渡シタルト決テ之レナク從來被告カ所有地タリ
シハ村方小庭帳並貢租取立帳ニ至ルモ依然被告名前ナルヲ以テ証
スルニ足ルヘシ其証左ニ掲載セル如シ

小庭帳ノ寫

齋藤勘右衛門

蓮城坊 本 田

一高五石九斗六升八合

取米三石四斗六升六合四勺四才

一高拾石貳斗五升五合

内四斗八升

同三斗六升三合

同壹斗五升

同人取下本田

辰不仕付引

寅同斷

一作盛下

同貳石壹斗五升五合

當毛引

殘七石壹斗六合

取米三石七斗六升六合貳勺

一高三升貳合 不仕付引

起返

本 田

一高五斗七升七合三勺五才

本 田 屋敷

取米貳斗六升五合五勺八才

取米七石四斗九升三合貳勺貳才

口米合七石七斗壹升八合貳勺

此俵貳拾貳俵壹升八合貳勺

右者小庭帳寫如斯三御座候

明治三年 貢稅取立帳寫

第四号

齋藤勘右衛門

一米七石七斗壹升八合貳勺

納高

一米壹石壹斗六升七合壹勺三才

小役

八石八斗八升五合壹勺五才

拂此俵廿三俵貳斗三合

内

三斗四升五合九勺渡部條右衛門屋敷分

貳拾貳俵貳斗七升七合壹勺

手前

内納

一米拾貳俵三斗九升九合

飛 田 村 運 助 斗

一 同 四 斗 壹 升 五 合

中 鉢 萬 藏 斗

一 同 壹 斗 六 升 六 合 壹 勺

高 橋 祐 助 斗

一 同 八 俵 壹 斗 三 升 七 合

福 田 村 林 七 斗

且初告裁判所ニ於テ現今副戸長カ爾阿部久左衛門ニ村方田地ノ義
 ニ付從前仕來ノ振合尋問セラレシニ其土書中ニモ御上納物等ニ差
 支候節ハ其當人雙方示談ノ上永立ト号シ其旨願出候得者戸長與印
 仕則張而表相直申候トアリ然ルニ該地ニ付テハ依然被告名面ノ儘
 ニ之レアリ加之其第一條第一項ニ正徳二辰年十二月土書大帳表蓮
 城坊名面ニ有之候而已外人ニ相讓リ候記述ハ無御座候得共文政十
 二丑年御物成取立帳ニ始メテ勘右衛門名面ニ有之云々又其第二項
 ニ天保十年中御田地内々立不足願上候帳面ニハ則チ勘右衛門名面
 ニシテ云々以上副戸長阿部久左衛門上申トアリ由是之レヲ見ルモ該地ハ曾テ原
 告ニ讓與セシモノニ非サル明瞭ナリ而シテ天保七年ヨリ今日ニ至
 ル迄原告ニテ貢租上納シ來リシハ天保七年ヨリ原告ニテ扣作爲致有
 之上ハ原告カ代納スルハ當然ノ筋ニテ事實原告ヨリ貢納セシトテ

被告名前ノ廉ニ貢納セシモノナレハ則チ被告ノ貢納タルハ勿論ノ
 義ナリ况ンヤ原告ノミナラス其他扣作人於テモ貢納セシチヤ將又
 原告ニ於テ該地ノ土書所持セルヲ以テ其所有タルヲ証スレモ何レ
 ヲリ讓リ受ケタルトノ証據之レナク而シテ當今証スヘキモノハナ
 シト雖モ被告ノ所持ノ土書ハ嘉永三年二月廿八日盜難ニ罹リ紛失
 セシ事ハ當時ノ村吏ニ届ケ置タリ前顯ノ次第ナルヲ以テ山形裁判
 所裁判ノ如ク該地ハ原告所有地ニ非ラサルヲ判然明確ナリ
 被告代人 齋藤千代野陳述ノ要領 明治十年十二月二十四日
 一土書八筆ノ内格外高税ノ場所字貳間界二々筆ノ場所ハ云々原告
 高橋雄助方ニテ耕作不致高山郡兵衛ト申者ニ又貸シ扣作爲致置
 候處右高山郡兵衛荒地ニ致スニ付當時ノ庄屋亡星川治左衛門ヨ
 リ自分先代亡齋藤勘右衛門ヲ被呼出云々

一 地租改正御調ニ付丈量ノ節ハ原告ニテ立會自分方ニテハ立會不
申候事

副戸長阿部久左衛門ヨリ初告山形縣裁判所へ差出シタル口
上書

新莊五日町村田地之義ニ付郷藏方從前仕來リ之振合御尋ニ付奉
申上候當邑ニ於テ前々田地表面賣々ハ御差留メニ和成居候處地
主共退々身代向不如意ニ罷成候へハ諸事御上納物等ニ差支候節
ハ共營人共双方示談ノ上永立與号其旨願出候得ハ戸長與印仕則
帳面表相直申候尤願不出分ハ藏方ニテ存不申候ニ付諸帳面其儘
ニ致置候間此段口上書ヲ以奉申上候以上

五日町村

副戸長

明治八年七月廿二日

阿部久左衛門

判文

第一條

原被双方ノ陳述無証據ノ廉ハ實際ヲ徵スルニ由シナシ依テ採用セ
ズ

第二條

被告ニ於テ天保七年ヨリ原告へ扣作為致有之上ハ原告方ニテ貢租
代納スルハ當然ナリト申立ルト雖モ扣作証書無之且貢租ハ地所所
有ノ者カ貢租スヘキコソ當然ニシテ扣作ノ者代納スルハ當然ナリ
トノ申立ハ採用シ難シ

第三條

被告於テ原告ヨリ貢納セシ連テ被告名前ノ廉へ貢納セシモノナレ

ハ乃チ被告ノ貢納タルハ勿論ノ義ト申立ルト雖モ事實原告ヨリ貢納スルモ被告ノ名ヲ以テ貢納セシナレハ至當ナレモ被告名前ノ廉ハ原告ノ名ヲ以テ貢納セシハ順序至當ヲ得タルモノニ非ス故ニ被告ノ貢納タルハ勿論タリトノ申立ハ不條理ニ付採用シ難シ

第四條

小庭帳貢稅取立帳等ハ明治二年ヨリ遡テ該地讓リ渡シテナシタル天保七年ニ至ルノ分兵火ニテ燒失セシモノカ村吏役場ニ無之旨村吏ノ申立アリ而シテ今被告ノ名受タルヲ証スル小庭帳簿類ハ明治三年以來ノ新製ナルヲ以テ舊時奈何ヲ知ルコ由ナシ依テ之ヲ採用セス

第五條

被告ニ於テ村方副戸長阿部久右衛門〔原〕ノ初告裁判所ニ於テノ申

立ニ當時ノ村吏與印セハ帳簿ノ面テ名前改ル可キ筈然ルニ該地ニ付テハ依然被告名前ノ儘ニ有之且同斷ノ節同人ヨリ文政十二丑年御物成取立帳ニ始メテ勘右衛門名面ニ有之又天保十年中御田地内々立不足願上候帳面ニハ則チ勘右衛門名面ニシテ云々申立タリ是レ原告所有ニ非ル判然ト申立習慣ニ於テハ必ス帳簿ノ面テ改マル可キ筈ナルニモセヨ當時取扱タル村吏及ヒ原被ノ父祖死亡シ何等ノ事故アツテ帳簿書改メサリシモノヤ四十餘年前ノ事今日實際ヲ考フル証ナシ又文政十二丑年物成取立帳ハ天保七年前ノ物ニテ被告方ヨリ自由ニ進退シ居ル節ノ帳簿ナルヲ以テ被告名面記載アルハ勿論ノ儀依テ是等ノ廉ヲ以テ原告所有ニ非スト判定シ難シ

第六條

從來地所賣買ハ制禁ニ付地所讓渡等ノ節ハ土書ニ添書シ村吏ノ與

印ヲ受ケ舊領主ノ役人ノ聞届チ以テ地所々有主タル權ヲ保チ土書ハ書改メストノ陳述ハ原被同一ナルチ以テ土書ハ所有主ヲ証スル確實ノ權利アルモノト信認ス然シテ原告ニ土書所有シアルハ何等ノ事故ニ據テ所有シアルモノカ原告ニ於テハ添書兵燹ニ罹リ燒失セシト云ヒ被告ニ於テハ土書ハ盜難ニ罹リ紛失セシト云ヒ原被トモ當時其筋ニ届置キタリト申立レモ何モ其証ナク判定シ難シト雖モ現今ノ所有者ハ原告ナリト認メサルチ得ス

第七條

右ハ純手タル被告ツ所有地ナルモノナレバ控作証書又ハ約定書等モ取置カヌ被告三代前ヨリ他人ニ托シタル儘四十年來抛テ置ク可キ謂レナク加之所有ヲ証スル土書紛失セシナレハ更ニ下渡チ願出可キ筈其他貢租等自ラ關係スヘキノミナラス地租改正調丈量ノ節

モ其場ヘ立會ラ可キニ何レモ其儀ナク捨置アル可キ筋コレナク依テ被告ニ完全ナル所有ノ權利アリトハ認メ難シ

第八條

之ニ反シ原告ニ於テハ字二間界ニタ筆ノ地所ハ福田村高山郡兵衛ヘ控作爲致貢租其他一切爲任置タリトノ申立ハ不都合ナリト雖モ右ニタ筆ハ天保七年ノ度原告ヨリ控作受ケタル由高山郡兵衛ヨリ原告ヘ取置キタル証書有之ノミナラス被告ノ陳述ニモ原告ヨリ又貸シセシト申立アレハ原告ヨリ高山郡兵衛ヘ控作爲致タル由ハ相違ナク其他六筆ノ地所モ原告方ニ於テ四十年來自由ニ進退シ貢租ハ被告名前ノ廉ヘ貢納セシナレモ自己ノ貢納ト心得原告ニ於テ事實貢納チナシ及ヒ土書所有シアル上ハ原告所有ニ歸ス可キモノト看認タリ依テ原告所有ノ權利アルモノト判決ス

明治十年十二月二十五日

大審院ニ於テ

原告 齋藤勘右衛門上告ノ要領

第一條

判文第四條ニ副戸長阿部久左衛門カ明治三年巳前ノ帳簿ハ兵火ニテ燒失セシト申立タルニヨリ舊時如何ヲ知ルニ由ナシト言渡サレタルハ不條理ナリ何トナレハ明治二年村役場ノ貢租取立帳自分貢納ノ部ニ列記シタル飛田村運助以下四名ノ者ハ皆自分ノ小作人ニテ現ニ壹斗六升六合壹勺高橋雄助計トアルハ貢租代納ノ証據ナリ左スレハ明治三年以前ノ帳簿ノ有無ニ關セス高橋雄助カ貢納ハ自分ノ代納タル事ハ明瞭ナリ

第二條

判文第五條ニ何等ノ事故アツテ帳簿ヲ改メサリシヤ四十年前ノ事

今日實際ヲ考フル証ナシトアレトモ往古ヨリ地所讓渡ス時ハ必村役場ニアル奥印帳ニ記載セシ上讓渡書へ奥印シ名寄帳及ヒ年貢取立帳ノ名前改正スヘキ村方ノ習慣ナル事ニ副戸長阿部久左衛門ノ申立ニ依リテモ確實ナルニ之ヲ採用セラレサリシハ明治八年第百三号布告法律ナキモノハ習慣ニ由ルトノ成文ニ反セシ不法ノ裁判ト思考ス

第三條

判文第六條ニ現今ノ所有者ハ原告 控訴ノ原告 高橋雄助ト認メサルヲ得ストアレトモ高橋雄助ニ於テ假令土書ヲ所持ストモ自分ノ名前ナルヲ以テ讓渡証書燒失セシトモ土書ニ村役場ノ割印有之歟又ハ讓渡ノ明文土書ニ裏書ナクシテハ其功ヲ有スヘカラス

第四條

自分ニ於テハ地券發行地價調ヨリ尙地租改正ニ付明治八年六月實地調地引帳ニ調印シ明治十年十二月ニ至リ明治八年十一月十八日付ニテ自分名前ノ地券ヲ下附セラレタルハ然テ高橋雄助ノ所有ト判決セラレタルハ明治八年六月十八日第百六号公布ニ地券申受サレハ買主ニ其地所々有ノ權無之トノ旨ニ反セシ不法ノ裁判ト思考ス

第五條

判文第七條ニ被告上告原告ノ所有地ナラハ被告三代已前ヨリ他人ヘ托シタル儘抛テ置ク謂レ無之トアレトモ高橋雄助亡父勘五郎ハ從來自分方ヘ召仕同様ニ出入セシ者ナルヲ以別段作徳米ヲ不取立一个年ニ八十日間農事ノ手傳ヲナサシメ之ヲ小作米ニ代用シテ控作爲致置タル事故不相替農事ノ手傳ヲ爲サハ幾年モ小作可爲致心得レ處舊誼ヲ忘レ手傳不致ルヨリ事起リシ義ナリ是等ノ事實斟酌

ナキハ不條理ノ裁判ナリ

第六條

判文第七條ニ土書紛失セシナラハ更ニ下ケ渡ヲ願ヒ出ヘキ筈トアリ即紛失後再應願ヒ出タレトモ舊領主ノ都合ニヨリシヤ下ケ渡シ無カリシナリ

第七條

判文第七條ニ地租改正丈量ノ節立會ニキニ其儀ナクアレトモ村吏一同立會丈量濟ノ上名寄帳反越歩ニ下筆限調印セシホレハコソ改正地券ヲ下附アリシ儀ナリ

第八條

判文第八條ニ字ニ間境ニ筆ノ地所云々天保七年ノ度原告上告被告ヨリ控作受ケタル由高山郡兵衛ヨリ原告上告被告取置タル証書有

之而已ナラヌ被告上告原告ノ陳述ニモ原告ヨリ又貸セシト申立
 レハ原告ヨリ高山郡兵衛へ控作爲致置タル事ハ相違ナシトアルハ
 事實ニ相違セシ裁判ナリ右二筆ハ自分方ヨリ直チニ福田村高山林
 七亡父運藏事林七ナル者へ前々ヨリ控作致サセ則チ其証ハ副戸長
 阿部久左衛門ナル者申立ノ内村役場ニ有之天保十年散田内立不足
 願帳簿ニ私方作主ノ部ニ林七喜七ト有之其後右地所同村治八ナル
 者へ控作致サセ尙又嘉永六年ノ度ヨリ引續當高山林七へ控作致サ
 セ置タルヲ明治八年正月十一日付乙号証書ノ通り取戻シ現今之ヲ
 所持セリ此二筆ハ被告雄助方ニ所持スル土書八筆ノ内ノ二筆ナリ
 如此キ証據アルヲ土書八筆トモ高橋雄助ノ所有ト判決ニナリシハ
 不法ノ裁判ト思考ス

右ノ次第ニ付宮城上等裁判所ノ裁判ヲ破毀セラレ論所八筆ノ田地

自分所有ト裁判アラシムヲ希望ス

原告 齋藤勘右衛門陳述ノ要領 明治十一年 十一月十四日

一土書讓渡ノ節添書無之候時ハ割印或ハ裏書無之候而者其効無之
 義ハ宮城上等裁判所へ口頭ヲ以申立候得共別段書面ヲ以テ申立候
 義ハ無之候事

一土書紛失ニ付再應下渡之義ヲ其筋へ申立候願書之寫並ニ其事實
 ナ書面ヲ以テ宮城上等裁判所へ申立候義ハ無之候事

上告追加

判文第五條ニ文政十二年物成取立帳ハ天保七年前ノ物ニテ被告高
 橋方ニテ自由ニ進退シ居ル節ノ帳簿ナルヲ以被告名面記載アルハ
 勿論ノ儀トアレモ村役場ニアル諸帳簿面勘右衛門名面ナルハ天保
 七年前ノ限ヲス明治十年迄ノ名寄帳小庭帳地引帳年貢取立帳

等不殘勘右衛門ノ名面ニ有之然ルチ天保七年前ノ廢ノニ裁判アリ
明治十年迄ノ諸帳面ノ廢ニ對シ裁判ナカリシハ不備ノ裁判ナリ
十一月二十六日

但訴訟入費ノ義ハ成規ノ通り請求致候事

被告 高橋雄助代同人妻高橋コノ答辨ノ要旨

第一章

第一條

上告狀第一條ニ曰ク判文第四條ニ副長阿部久左衛門カ明治三年
已前ノ帳簿ハ兵火ニテ燒失セシト申立タルニ對シ舊時如何ヲ知ル
ニ由シトシト言渡サレタルハ不條理ナリ何ト云ハ明治三年村役
場ノ貢租取立帳自分貢納ノ部ニ列記シタル飛田村運助以下四名ハ
皆自分ノ小作人ニテ現ニ壹斗六升六合壹勺高橋雄助計トアルハ貢

租代納ノ證據ナリ左スレハ明治三年以前ノ帳簿有無ニ關セズ高橋
雄助カ貢納ハ自分ノ代納タル事ハ明瞭ナリト上告セリ該條ニ於テ
上告者カ要點トスル處ハ舊時ノ奈何ヲ知ルニ由シトシトノ裁判ナ
不條理ナリトスルニアリ其不條理ト思料スル所以ハ明治二年ノ役
場帳簿ニ記載アル飛田村運助以下四名ハ皆自分ノ小作人ニシテ然
モ壹斗六升六合壹勺高橋雄助計トアリ然テハ明治三年以前ノ帳簿
ノ有無ニ關セズ自分貢租ノ代納タルハ明瞭タルハ舊時ノ奈何ヲ知
ルニ由シトシトノ裁判ハ不條理ナリト云フニ過キタ然ルニ該裁判
ハ其明文ノ如ク之ヲ解釋スレハ上告者カ自己ノ名受タリシト証ス
ル處ノ小庭帳簿類ハ明治三年以來ノ帳簿ニシテ其以前ノ帳簿ハ之
レナキニヨリ其以前ノ事ヲ知リ難シト言フノ意ナレヲ以テ決シテ
不條理ニ非ルナリ然ルチ上告者ノ貢納ヲ被上告者カ代納セシトハ

明瞭ナレハ舊時ノ奈何ヲ知り難シトテ、裁判ハ不條理ナリト言フハ
 裁判ト上告ト趣意ヲ異ニスル不條理ノ上告ナリ其不條理ナル理由
 ナ左ニ辨明スヘシ

飛田村運助等ハ皆被上告者ヨリ中附置タル小作人ニシテ決テ上告
 者ヨリ申附タル小作人ニアラス然シテ壹斗六升六合高橋雄助計リ
 トアルハ貢納セシ其俵ノ差札ノ名前ヲ記シタルモノナリ然モ貢納
 ニ至ツテハ悉ク被上告者ノ名ヲ以テ貢納ス第三号証ヨリ五号証番
 外二号ヨリ番外三号ニ至ル皆其貢納受取証ニシテ何レモ被上告者
 ノ名ニ宛テアリ豈ニ上告者ノ代納セシモノナラシヤ故ニ上告者カ
 原裁判ヲ不條理ナリト云フハ却テ不條理ノ上告ナリ況乎原裁判ハ
 帳簿焼失セシヲ以テ舊時ノ如何ヲ知ルニヨシナシトアルハ上告者
 ノ代納ナルヤ否ヲ知ルニ由ラザルト謂ニアラサルヤ假令實ニ代

納セシモノナレハ此廉ノミヲ以テ焉ソ舊時ノ如何ヲ知ルヲ得シ
 ヤ是レ裁判ト上告ト其趣意ヲ異ニセル不條理ノ上告ト云フ所以ナ
 リ

第二條
 上告狀第三條ニ判文第五條ハ明治八年第三百三號布告法律ヲキモノ
 ハ習慣ニ由ル上ノ成文ニ反セシ不法ノ裁判ナリト云フ雖モ該公布
 ノ習慣トハ民間ノ習慣ニ非スシテ官ノ習慣ナリ然モ役場舊帳簿ハ
 焼失シ偶々文政十二年ノ帳簿ハ上告者ノ名前ナルモ土地讓渡前ノ
 モノナルヲ以テ當時ヲ考フルニ由シナシ然シテ判文ヲ解約スレハ
 假令ハ習慣ニ依テ改ム可キ筈ニモセヨ改マリシモノナルヤ又ハ何
 等ノ事故アツテ改マテサリシモノナルヤ當時取扱タル村吏及ヒ原
 被ノ父祖死亡セシ故今ニ至ツテ之ヲ証スルニ由ナシ況乎文政度ノ

帳簿ハ被上告カ自由ニ進退セシキノ帳簿ナレハ被上告者ノ名前ナ
 ルハ當然ナリ故ニ是等ノ廉ニ依テハ未ク被告ノ所有ナリトハ確定
 シ難シト云フ意ニテ該習慣ハ決シテ取ラスト云ヒシニアラヌ又上
 告者ノ認メタル公布ノ習慣ハ之ヲ誤認セシモノナリ故ニ決テ不法
 ノ裁判ニアラヌト信ス

第三條
 上告狀第三條土書ニ村役場ノ割印有之乎又ハ讓渡ノ明文裏書ナシ
 シテハ其功キ有セスト云ト雖モ初審裁判所終審裁判所ハ村役場ヨ
 リ差出シタル書面ニ當時ニ於テハ前々田畑表向賣買御差留ニ付地
 主共身代不如意罷成候得ハ諸事御上納物等ニ差支ニ付當人共共旨
 願出候得ハ帳面表相直シ申候尤モ不願出候得ハ其實存不申諸帳面
 其儘致置申候寶曆年中當村土書々替相成申候尤モ地主相替リ候共

其後今日ニ至ル迄土書相改不申候上申セシ如ク土書ハ〔沽券狀ノ
 寶曆以後改マラ毎ル習慣ナリ土書ヲ所有スル者ハ地主タルノ權
 利ヲ有シ來レリ開明ノ今日ヨリ之ヲ見レハ種々不都合ノ廉不勘ル
 モ當時ノ習慣土書ノ名前彼我ヲ論セス只土書所有シアレハ地主ハ
 心得居タリシハ近隣モ皆然リ何レ其効ナシトセンヤ

第四條
 上告狀第四條ニ自分ニ於テハ地券發行地價調ヨリ云々申立ト雖モ
 實地丈量ノ節ハ被上告者ニ於テ立會上告者ハ曾テ立會ハ又同條
 ニ明治十年十二月ニ至リ明治八年十一月附ニテ自分名前ハ地券ヲ
 下附セラレタリ然ルチ高橋雄助ノ所有ト判決セラレタルハ明治八
 年六月十八日第百六號公布ニ地券申受ケサレハ買主ニ地所々有ス
 權無之トノ旨ニ反セシ不法ノ裁判ナリト云ト雖モ抑本訴ノ起リタ

ルハ明治八年ニテ被上告者ノ所有地字の場へ上告者ヨリ歛入セシ
 ニ付區長へ理解願出タル處被上告者ノ所有地一般へ上告者ヨリ畝
 杭打置タルニ付退々談判セシニ帳簿ハ勿論土書モ上告者名前ナル
 ニ付上告者所有地ナリト主帳シ理解不調遂ニ山形縣ニ出訴ノ末宮
 城上等裁判所へ控訴致シ明治十年十二月二十五日判決相成タリ然
 ルハ地券狀ノ縣廳ヨリ不附相成タルハ明治十年十二月ニシテ元來
 訴名ハ地所不實ト題セルモ争フ處ハ所有權ニ至リ而モ地券下附ノ
 以前訴訟ヲ起シ畢竟地價帳等上告者ノ名面ナルヨリ釀セシ争訟ナ
 レハ終審裁判言渡シ以前ニ在ツテハ地券下附スベキモノニ無之假
 令下附ナル共終審裁判云渡シノ上ハ被上告者ニ引渡シテ爲サハル
 可カラス然ルヲ別紙證據物第六號ノ通り戶長ノ心得違ヲ以テ上告
 者へ下附セシナリ況ヤ該地券ハ宮城上等裁判所へ差出シタルモノ

無之宮城上等裁判所審問中ハ原被何レノ所有ニ屬スルカ判然セ
 サルモノナルヲヤ右ノ理由ナルヲ以テ宮城上等裁判所ノ裁判ハ明
 治八年第百六號公布ニ反セシ義無之決シテ不法ノ辨明ニアラサル
 ナリ故ニ終審裁判言渡シ以前ニ在ツテハ地券下附スベキモノニ無之假
 令下附ナル共終審裁判云渡シノ上ハ被上告者ニ引渡シテ爲サハル
 可カラス然ルヲ別紙證據物第六號ノ通り戶長ノ心得違ヲ以テ上告
 者へ下附セシナリ況ヤ該地券ハ宮城上等裁判所へ差出シタルモノ

第五條 被告ノ所有地ニ被上告者ノ所有地ニ屬スルカ判然セ
 上告狀第五條ハ全ク形跡モナキ虛妄ノ事ナリ故ニ被告(控訴ノ被
 告齋藤)三
 代己前ヨリ他人へ托シタル儘抛テ置ク謂フ無之ハ條理至當ノ辨
 明ナリ

第六條 被告ノ所有地ニ被上告者ノ所有地ニ屬スルカ判然セ
 上告狀第七條ハ上告者ハ地租改正丈量ノ節村吏一同立會タル旨申立
 ト雖モ上告者於テハ立會タル義ニ無之ニヨリ争訟ヲ釀生セシナリ
 然シテ宮城上等裁判所ノ辨明ハ實際ニ適シタル辨明ナリ

第七條 原告第八條 天保十年内立不足願帳簿ニ私方作主ノ部ニ林七喜
 七下有之云々嘉永六年少渡ヨリ引續控作爲致置明治八年正月十一
 日付乙號証書以通り取戻シ云々右内立帳作主ノ部ニ林七喜七ト之
 部アル旨中立ト雖モ元來土書ハ上告者ノ名面ニテアレハ該内立帳
 作主上告者ノ名前ニ相成リ居ル義ニテ之ヲ以テ上告者ノ命シテ控
 作主云々難シ又乙号ハ高山林比ノ初審ノ陳述終審ノ陳述ニテ全
 ク上告者ニ強シラレタル事明瞭ナルカ故ニ無効ニ屬セリ然ラハ則
 チ宮城上等裁判所ノ辨明ハ不法ニ非ルナリ
 第八條 原告第九條 天保七年前ノ廉而已裁判ヲ以テ天保十年御田地
 内立不足願帳簿名面ニ廉判決ナキハ不條理ニ裁判ナリト云々雖

モ宮城上等裁判所辨明第五條ニ文政廿二丑年御物成取立帳ニ始メ
 七勘右衛門名面ニ有之又天保十年中御田地内々立不足願上候帳面
 目則チ勘右衛門名面ニ有テ云々是等ノ廉ヲ以テ原告所有ニ非ス
 事判定シ難ク左スレハ原告勘右衛門ヨリ差出シ廉帳簿
 目是等ノ廉ヲ以テ合蓄スルヲ以テ裁判所與ヘラレサルハ非ス
 第三章 第一條 其地内ノ人々ニ對シテハ其地内ノ人々ニ對シテハ
 本訴ノ答辨法爲ス付テ是事柄以履歷ヲ陳述スルヲ被上告者ニ於
 テハ緊要ナル事柄故ニ詳細之ヲ陳述ヲ爲サント欲スレハ答辨元長
 ニシテカ故ニ別ニ其履歷ヲ畧陳センルヲ以テ答辨元長
 第一條 其地内ノ人々ニ對シテハ其地内ノ人々ニ對シテハ
 本村ニ山間僻陋ノ不開化地ニ對シテ現今モ尙男女衣服ヲ同フシ
 男女ノ別ヲ見分テ難ク程ナリ質朴ノ人民ニシテ自カラ文字ニ乏ク

被上告者高橋雄助は如きモ唯耕耘而已ニ從事セル愚直ニ偏ノ者ニ
 有之上告者齋藤勘右衛門ニ從來馬喰渡世ニテ徧ク他國ヲ經歷シ自
 ツカラ聞見モ博ク且明治七年頃ヨリ詞訟代人ヲ營業トシ郷里ニ於
 テハ其才氣ニ恐レ名ヲ聞テ畏縮スル如キ景況ニ有之然ルニ明治八
 年度地租改正取調ニ付村役場諸帳簿ヲ調査スル節明治元年以前ノ
 記録ハ之ニ無シト雖モ其後ノ帳簿上告者勘右衛門ノ名前ニ有之ヲ
 見シヨリ此爭論ヲ釀生シ遂ニ詞訟ニ及フニ至レリ然シテ上告者ハ
 始審々理中被上告者ノ耕耘セシ稻禾ヲ擅ニ刈取リシコヨリ番外三
 號証ノ如ク其所分ヲ受ケタリ又番外六號ノ如ク終審裁判ノ執行ヲ爲サス
 長澤喜平治へ賣却シ又番外四號ノ如ク終審裁判ノ執行ヲ爲サス
 テ戸長ニ謀リ地券ヲ受取リシ等實ニ被上告者ヲシテ困却セシメ
 リ其レカ爲メニ被上告者高橋雄助ハ明治八年ヨリ健忘ノ症ヲ發シ

人事ヲ分タサルニ至ル且上告者ハ四十有餘年間貢租諸役等ニ關セ
 ス被上告者ハ之ニ反シ四十有餘年間地主タルノ義務ヲ盡セリ其土
 書ノ如キハ上告者ノ名面ニ於テ雖モ習慣ニ依テ自己ノ所有ト安堵
 シ居タリ然ルニ地租改正ノ爲メ若シ被上告者カ所有ノ權利ヲ失フ
 ニ至ルトキハ親子兄弟離散ノ外ナシ剩シ五ケ年間巨多ノ訴訟入費
 ナモ相掛リタリ若シ之レヲ被上告者ヨリ償フヘキニ至ル彼レ若シ
 負訴訟トナルモ從來財産モナキモノナルヲ以訴訟入費ノ償却ニ至
 ツテ又更ニ苦情ヲ稱フ可ク到底被上告者ノ苦難名狀スヘキナリ實
 ニ涕泣ノ至リニ堪ヘサルナリ

第二條

前條々々如ク宮城上等裁判所ノ裁判ハ不法不條理ニアラス依テ右
 終審ノ裁判確定相成様懇禱ス

但訴訟入費ノ義ハ成規ノ通り請求致候事

第一 被告高橋雄助カ年貢ヲ納メ來リシハ上告人齋藤勘右衛門ノ代納ナリトノ事

第二 地所讓リ渡シヲ爲ス時ハ各寄帳等ノ各前々改正スヘキ習慣ナリ事ハ副戸長阿部久左衛門ノ申立ニ依リ確實ナルヲ採用セザリシ事

第三 高橋雄助ハ土書所持ト雖モ勘右衛門各前々ニテ添証書モナク又村役場ノ割印裏書モナキニ依リ其効力有セザル事

第四 勘右衛門ハ地券下調地引帳ニ調印シ明治十年十二月ニ至リ地券ヲ附與セラレタリトノ事

第五 勘右衛門ハ論所ヲ拋棄セシト非カシテ事

第六 判決第六條ニ土書紛失セシナラハ更ニ下渡ヲ願出ル管ナリ

第七 判決第七條ニ實地丈量ヲ節立會ニシテ之ヲ認ムル事

第八 判決第八條ニ字ニ間界三筆ハ雄助並前高山郡兵衛控作爲致タル事ニ相違ナシトアレトモ事實ニ相違セシトノ事

第九 天保七年前ノ諸帳簿而已ニ對シ判決シテ其以後ノ諸帳簿ニ對シ判決シカハ

第十 第一條ニ對シテ

上告人齋藤勘右衛門ハ證據トセシ明治三年々貢取立帳寫ニ依リ雄助ハ小作人ト一人ナルカ如ク雖モ該帳簿而已ヲ以雄助カ貢

納セシハ勘右衛門ノ代納ナリト爲スチ得サルモノトス如何トナレ
ハ若シ雄助ヲ以テ代納セシメシナラハ村役場ノ受取書ハ勘右衛門
名宛ナルヘキチ雄助宛ノ受取書ヲ差出セシハ村役場取扱モ從來一
様ナラヌ左スレハ宮城上等裁判所ニ於テ年貢取立帳ヲ以テ雄助カ
貢納ヲ勘右衛門ニ代納ト看認メサリシトテ不法ノ裁判ト爲スチ得
ス

第三條

地所讓渡シテ爲ス時ハ名寄帳等ノ名前ヲ改正スヘキ習慣ナル旨
副兵長阿部久左衛門ノ申立アルヲ採用セサリシハ不條理ナリト申
立上雖モ久左衛門カ習慣ナル旨ニ申立而已チ以論所ノ所有者決
スルヲ得サルモノトス如何トナレハ其久左衛門カ申立ノ内ニモ願
不出分ハ藏方ニテ存不申候ニ付諸帳而其儘ニ致置申候トアルヲ以

テナリ

第三條

雄助カ所持スル土書ハ勘右衛門名前ニシテ添書モナク又村役場ノ
裏書割引モナキニヨリ其効チ有セスト申立上雖モ勘右衛門カ土書
紛失セシト云フモ其筋ヘ届ケ出タル証ナク雄助ニ於テ添書ハ兵燹
ニ罹リ焼失シタリト云フモ其筋ヘ届ケ出タル證據ナシ斯ノ如ク双
方共ニ確証ナキ場合ナルヲ以テ現ニ其物件チ有スル者ノ所有ト定
メシハ不條理ト爲スチ得ス故ニ宮城上等裁判所カ現ニ土地及ヒ
土書チ有スル者ハ雄助ナルヲ以テ雄助ノ所有ト判決シタルハ不法ノ
裁判ニアラストス

第四條

上告人勘右衛門ハ地引帳ニ調印シテ既ニ地券ヲ受ケタルチ雄助ノ

所有ノ判決セシハ明治八年第百六號ノ公布ニ反セシ不法ノ裁判ナル旨申立ト雖モ右ノ公布ハ一般地券下附ノ以後其土地ノ賣買讓與等ニ關スル公布ニシテ地券下附以前ヨリ爭ヒシ所ノ所有ヲ決スルコトニ適用スルニ非カモトス

第四條 勘右衛門ニ於テ公會テ地所ヲ拋棄セシモノニ非ス云々申立ト雖モ四十年來小作証書並ニ作徳モ取ラヌ年貢ヲモ納メヌ又八十日間農事及手傳ヲ爲サシメヌリト申立アレトモ其證據之レナキ上ハ判決ニ四十年來拋棄置謂ナシトアルハ相當ナリ

第六條 土書紛失以後再應下ケ渡シテ願出タル旨申立ト雖モ曾テ其證據ヲ舉ケサリシニヨリ判決ニ土書紛失セシナラハ更ニ下ケ渡シテ願出

合キ管トアルモ不法ノ裁判ト爲スヲ得ス

第七條

明治十年十二月二十四日齋藤千代野カ宮城上等裁判所ニ於テノ口供ニ地租改正御調ニ付丈量ノ節ハ原告ニ高橋雄助立會自分方ニテハ立會不申候事トアルニ依テ今更立會タル申立セモ原裁判ニ影響ヲ生セサルモ不

第八條 判文第八條ニ字並問界二筆ノ地所云々原告(高橋雄助)ヨリ高山郡兵衛ニ控作爲致置事ハ相違ナシトスルハ事實ニ相違セシ裁判ナル旨申立ト雖モ控訴原告高橋雄助代人高橋ヨシカ宮城上等裁判所ニ於テ明治十年十二月廿四日ノ申立ニ

高山郡兵衛ニ私方ニ控作爲致置候田方ニ安政元寅年同人ヨリ

又々高山林七へ控作爲致候旨郡兵衛ヨリ斷有之云々
 第六號証書郡兵衛ヨリ私方へ宛差出シ候儀ハ明治八年中私ヨリ
 齋藤勘右衛門ヲ相手取リ山形縣裁判所へ出訴仕候節被告齋藤勘
 右衛門申立ニ地所ハ自分ヨリ高山林七ト申者へ控作致サセ置候
 旨事實相違ノ儀ヲ申立タルニ付云々高山郡兵衛ヨリ實際ノ事ヲ
 証書ニ任立サセ明治八年七月付ヲ以私方へ受取置候
 高山林七儀ハ山形縣裁判所へ爲引合御呼出ニ相成候節齋藤勘右
 衛門ヨリ直ニ控作受取候旨申立候得共御審判ノ未全ク齋藤勘右
 衛門ヨリ右様申立吳候様折入テ被相頼候夫カ爲メ前條申立候得
 共實ハ齋藤勘右衛門ヨリ直ニ控作受取タル儀ニ無之云々
 控訴ノ被告齋藤勘右衛門代人齋藤千代野カ明治十年十二月二十四
 日宮城上等裁判所ニ於テノ申立ニ

右ニテ筆ノ地所高橋雄助方ニテ耕作不致高山郡兵衛ト申者へ又
 貸シ控作爲致置云々
 又但書ニ
 私方ヨリ直チニ高山林七へ控作申附置候旨ニ最前申立置候得共
 此申立ハ原告ヨリ高山林七へ控作爲致置タルト申立候故右ノ際
 へ對シタル申立ニ御座候
 右字ニ間界二筆ノ地所ハ天保七年原告高橋へ控作爲致タル土書
 八筆ノ内ニテ原告耕作不行屈荒地ト相成テ厭ヒ更ニ嘉永六年元
 村役場へ任せ高山林七へ控作爲致云々
 齋藤勘右衛門代人ノ陳述一定セサル事斯ノ如シ依テ宮城上等裁判
 所ニ於テ原被雙方ノ陳述ニ依リ字ニ間界二筆ハ天保七年ノ度原告
 ヨリ控作受ケタル由高山郡兵衛ヨリ原告高橋へ取置タル証書有之

ニ依リ原告ヨリ高山郡兵衛ハ控作致サセ置タル事ハ相違ナシト認
定セシハ相當ニシテ事實ニ相違セシ裁判ト爲スヲ得ス

第九條

宮城上等裁判所ハ天保七年前ノ諸帳簿ニ對シ判決シテ其以後ノ諸
帳簿ニ對スル判決ナカリシ旨申立ト雖トモ判文第四條ニ今被告ノ
名受タルヲ証スル小庭帳簿類ハ明治三年以來ノ新製ナルヲ以舊時
奈何ヲ知ルニ由ナシトアルニ依リ天保七年以後ノ諸帳簿ニ對スル
判決ナカリシト爲ス事ヲ得ス

判決

前條々々筋合ナルヲ以テ明治十年十二月二十五日宮城上等裁判所ニ
於テ宣告シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキ者トス
但訴訟入費以義ハ規則ニ通リ原告齋藤ヨリ償却スヘシ申立

第七拾八號

○家督相續差拒一件大坂上等裁判所裁判不當上告ノ判文 明治十

月二十一日上告
明治十二年五月五日申渡

堺縣大和國平群郡西安
塔村平民

原告

稻田藤九郎

同縣同國同郡同村平民

稻田藤平

同縣同國同郡東安塔村

平民

岡野源三

同縣同國添上郡奈良多

門町平民

小川市太郎

東京府神田區駿河臺西

紅梅町十五番地寄留福

岡縣士族

右代人 喜久治

堺縣大和國平群郡西安

塔村平民

原告 小川宗三郎

同縣同國同郡同村平民

被告 小川宗三郎

大阪上等裁判所審判

原告小川トキ代官人小島忠里控訴ノ要領 明治十一年十一月十六日

原告小川トキハ小城猶吉ノ後妻ニシテ明治三年十月五日猶吉死亡

ニ後養女カス跡相續ヲ爲シタルニカスモ亦死亡シ他ニ遺子無キヲ

以テ更ニ相當ノ相續人ヲ撰定スルマテ原告小川トキ於テ仮リノ相

續ヲナシ小城家ヲ繼續スヘキノ權利ヲ有スル者ニシテ既ニ一旦其

相續者爲シタルナリ然ルニ尊屬ノ親ニモアラスル被告等カ之レニ

故障ヲ唱ヘ其妨害ヲ爲シ原告小川トキノ不適當ナリトスル福田宗

太郎正男寅太郎ヲ以テ強テ相續セシメントスルニヨリ明治十一年

四月二十四日之レカ防禦除却ヲ訴テ初審裁判所ニ爲シタルニ控訴

狀掲載ノ如ク裁判ヲ蒙リタリ該裁決書第一條中ニ抑兵主死亡シテ

家ヲ相續スルキ者ナキ時ハ云々現ニ血統ノ卑族親アルヲ擱キ何ノ

以原告トキナシテ補欠相續者爲サシタルニ及ハズトアレバ被告

於其相續人トナスヘシト主張スル福田寅太郎ナル者ハ亡夫猶吉ノ子孫ニ非ス又甥姪ニモアラザレバ之レヲ稱シテ相續セシムヘキ血統ト云フベカラズ枉ケテ之ヲ血統ト爲シ仮リニ相續人トナスヘキ者ト定ムルモ寅太郎原告小城トキ以テ認メテ不當アリトスル者ナレバ原告小城トキノ之ヲ諾セサル間ハ決テ立テ相續人トスルヲ得ズ故ニ其相續人ヲ撰定スル事故ノ如何ヲ問ハズ之レヲ撰定スルマデノ間ハ假リク相續ヲ爲スヘキナリ之レ補闕相續ナル者ノ主意ナリトス然ルニ此主意ニ背キ血統ニモ非ル者ヲ以テ血統ナリトセラレタルハ之レ道理ニ背反セシ裁決ト云フベキナリ又其第二三條ニ福田寅太郎ノ疾病ノ有無ト其輕重トヲ分テ非常ノ力作堪ヘサルモ農家ヲ相續スル能ハサル病ニ非スト見認ラレ寅太郎ヲ以テ相續セシムルキ者トスト裁決セラレタレバ該症ハ實ニ重症ニシテ且非

常ノ力作ニ堪ヘサルハ農家ノ大ナル妨ナレハ假令實子タリトモ相續致サズヘキ人ニ之レナシ況ンヤ他人ノ子ナルヲヤ然ルハ此ノ如キ人ヲ以テ相續セシムルモ差闕無シトシテ裁決ハ人ノ忍フコ能ハサルコトヲ忍フ可シト謂フモノニシテ實ニ不仁ナリト云フベキナリ又原告小城トキカ家續和續ニ故障ヲ唱ヘ妨害ヲ爲ス被告六名ノ内岡野源三ハ亡夫猶吉カ先妻トシテ兄ニシテ小川市太郎ハ猶吉カ養女「カス」ノ兄ナレバ「カス」生存中ハ親族ト稱スルヲ得ヘキナレバ毫モ猶吉カ血脉ニ非ス且ニ女死亡ノ後ハ族縁已ニ斷ヘタル者ナレハ他人ヲ以テ視ルヘキ者ナリトハ又小城宗三郎ハ猶吉兄宗次ノ養子ナレハ仮リニ叔姪ノ名義アリト雖モ其實他人ナリ而シテ猶吉カ親族ト稱スヘキハ纒カニ稻田藤九郎稻田藤平福田勇次ノ三名ナリト雖モ藤九郎藤平ハ猶吉カ從兄弟ニシテ勇次ハ從弟ノ子ニ該レリ右

如少被告六名等、猶吉カ血脈ニモ非ス又尊屬ノ親ニモ非レハ原
 告小城トキカ家督相續ノ義ニ參シ隊ヲ容ルハノ權利ヲ有スル者ニ
 非ルナリ又今回對審ノ際被告於テ原告小城トキカ訟求ニ抗辨シ福
 田寅太郎ヲ以テ相續人ト爲シトスル目的ハ畢竟小城家ヲ維持シ該
 家ノ幸福ヲ慮ルニ外ナラサル旨申陳セリ果シテ被告カ申供ノ如ク
 ナレハ却テ原告小城トキカ訟求ノ如ク寅太郎ヲシテ該家ヲ相續セシ
 ムルノ理由無キコト判然タリ何トナレハ前述ノ如ク寅太郎ハ養親ト
 ナルヘキ原告小城トキカ意ニ適セサル者ナレハ若シ強テ小城家ヲ
 相續人トラシムルハ親子ノ間日夜紛擾ヲ生スルハ必然ナリ且彼
 レ重症アツテ廢疾者ニ均シテハ豈之レカ配偶者ト爲ルヘキ者ア
 ラシヤ然ルハ該家ヲ繼承スヘキ子女ヲ設ルコト能ハサルコトナラ
 ス終始十分ノ力作ヲモ爲ス能ハサル者ナレハ將來農業ニ障害ヲ生

シ之レカ爲メ他日該家ノ破産ニ至ルモ計リ難ケレハナリ右等ノ情
 由アルモ被告於テ仍ホ寅太郎ヲシテ該家ヲ相續セシメシト抗論ス
 ルハ該家ヲ亡滅セシメント欲スルノ意匠ニ非レハ情理ニ疎ソシテ
 一家興廢ノ道ヲ知ラサル者ト謂フヘキナリ夫レ前顯ノ如クナレハ
 依リ他日至當ノ相續人ヲ撰定スルマテハ原告小城トキカ於テ該家ヲ
 相續スルハ情理ニ於テ允當ナリト考量スルニ付尊屬ノ親ニモ同等
 ノ至親ニモアラサル被告等カ妨害ヲ爲サハル様裁決ヲ仰シ
 被告 岡野源三 稻田藤九郎 稻田藤平 小川市太郎 福田勇治 小
 城宗三郎 右六名 代言人 井田剛 答辨ノ要領
 自分共ハ皆小城家ノ親族ニシテ原告小城家ノ祖先 奈良次郎 被告
 ノ内 小城宗三郎 方ヨリ 分家シ二代 猶吉ハ 奈良次郎ノ弟ニシテ 同シ
 シ 宗三郎 方ヨリ 養子ニ遣シタリ而シテ 猶吉妻「タミ」ハ 岡野源三 妹ヲ

リシカ實子無之ニ付小川市太郎姉カスハ血族ナルヲ以テ養女ニ賞
 受ケ罷在ル内今ヲ距ル十二年前タニ死亡セリ然ル處其頃雇入レ是
 レアリタル大和國葛下郡王寺村巽喜太郎妹トキ即本訴ノ原告人ト猶吉密
 通シ男子猶次郎ヲ出産シタル後明治三年十月廿日猶吉死亡セシニ
 付養女カスニ相續致サセ小城宗三郎後見ヲ爲シ居タル處原告小城
 トキ及ヒ兄巽喜三郎ヨリ小城カスノ厄介ニ加籍致サセ吳度然ルキ
 ハ專ラ幼者ヲ看護致ス可キ旨ヲ以テ只管依頼スルニ付猶吉存命中
 入籍ハ許サハル者ナレト既ニ出生セシ猶次郎モ有之ニヨリ明治五
 年三月三日入籍致サセタル後明治八年六月二日猶次郎死去引續キ
 「カス」モ亦死亡ス因テ血統ノ者ニ相續致サセ可クト親戚協議ツ折柄
 原告小城トキ密ニ兄巽喜三郎ト謀リ自分一分ノ連署ヲ親類總代ト
 偽リ明治九年十二月五日堺縣廳ヲ許可ヲ受テ相續致シタルヲ付明

治十年八月十七日左ノ二号証ノ如ク相續人改立ノ儀同縣廳へ出願
 及ビタル處親類總代ト詐稱セテ登露シ原告小城トキ相續ノ儀相
 廢セラシ更ニ至當ニ相續人ヲ撰ニ親類協議ト上可願出旨達セラシ
 タリ

第三號証
 當御縣管下大和國第三大區二小區平群郡西安塔村七百七半番地
 小城トキ儀當時尙小城カス死跡相續罷在候得共有ハ血統ノ順序
 ヲ失ヒシノミナラズ小城家へ入籍ノ義モ違法ヲ兼有之今般更ニ
 相續人改立仕度ニ付願ヒ奉ル要旨左ノ如ク

第一條
 小城トキ先々代小城猶次郎後猶吉義式小城宗三郎方ヨリ分家セ

シモノニシテ 宗次郎ト猶吉ハ 亡猶吉妻ハ 東安堵村岡野源三郎娘
 タミト申者ナリシカ實子無之依テ親戚奈良多門町小川市太郎姉
 カネト申者ヲ養女ニ賞受ケ一家三名罷在候處今チ距ル十一ケ年
 前妻タミ死亡セリ然ルニ其頃ヨリ雇入レ有之同國葛下郡王寺村
 巽喜太郎妹トキト申者 當時ノ相 亡猶吉ト密通シ去ル 明治三年十
 月五日男子出生 猶次郎ト名付タリ然ル處同月十日猶吉死亡ス因テ跡相續
 ハ養女カネト致サセ本家小城宗三郎後見ヲ爲シ居タリシ處雇人
 志キ并同入實兄喜三郎ヨリ亡猶吉死去後既ニ三ケ年間モ經過
 ント雖モ右猶吉ヘ貞心ノ爲メ他ニ縁組ノ思念無之依テ小城カネ
 方ヘ厄介ニ加籍致サセ其度然ルモカ專ラ幼者ヲ看護ニ盡カスヘ
 志キ旨ヲ以テ只管頼談ニ付亡猶吉存命中入籍ハ許サ、ル者ト雖モ
 密通ト云ナカレ巳ニ子出生モセシ義ナレハ其情狀ヲ酌量シ

明治五年五月三日入籍致サセ置ク處同八年六月二日右トキ分娩
 スル處ソ猶次郎病死引續キ同年九月三十日戸主カネモ亦鬼籍ニ
 入りタリ

第二條 凡ソ前條ノ如クシテ、
 明治五年二月三日雇人トキチ小城家ニ入籍致サセ置キシハ全ク
 厄介ソ籍ナラト存居候處豈斗メ亡猶吉後妻トナシ有之抑モ妻ハ
 夫アツテ娶ルモノニシテ夫ナケレハ妻ヲ娶ルノ理無シ然ルチ既
 ニ死セル猶吉ノ妻ナラトシテ小城家ニ入籍セシハ法律上有ルヘ
 カラサルコトニシテ爲スヲ得ヘカラサルノ所業タルト論テ俟テ
 スシテ明白ナラシメ

第三條 凡ソ前條ノ如クシテ、
 於テ願書ヲ造リ同人親戚者ノニ聯印ニ上戸長ノ與印ヲ

要シ親戚協議上他ニ相續スヘキ者無之ニ依リト先相續致シ度
 旨當御廳へ出願ナシタルニ付願ニ任セラレ當時トキ相續致シ居
 候へモ其實小城家ノ親族タル私共等ノ協議上ヨリ出タルモノニ
 非ス只トキ一分ノ外戚ノ協議上ノ情願ナレハ戸長之レカ與印
 ナ爲セシ實ニ不條理ト云ハサレテ得テ
 第四條
 第三條ニ陳述スル如ク猶次郎兩氏共死去シ血統ニアラサ
 ルトキ一名ノ相殘レリ然ル處兼テ跡相續ニ義ハ必ス親族ノ者
 ヨリ爲致吳度旨亡猶吉ノ遺言モ有之且他ニ相續スヘキ者モ多々
 有之ニ付親族協議上血統ノ者ヨリ至當ノ相續人ヲ撰ニ相續セシ
 ムルハ條理允當ニシテ血統ニアラサル下キ小城家ノ相續ニ爲ス
 與夫ニ法ニ違フモノナリ

右條々陳述スル如ク血統ノ親アリナカラ謂レナク血統ニアラサ
 ルトキナシテ相續セシムルノ理無之加之右トキ方今身持放蕩ニ
 シテ迎モ該小城家ヲ維持スルノ目途之レ無ク却テ滅亡ノ期ハ近
 ニ在ランヤモ計難シ然ルチ本家ハ勿論親戚ノ者共豈黙々トシテ
 之レヲ傍觀スルニ忍ヒス依之親族一統連署シテ以テ相續人改立
 致シ候様被成下度此段偏ニ奉懇願候以上

明治十年八月十四日

大坂府下第五大區一小

區北平野町一丁目廿九
 番地寄留京都府士族
 小城親類總代
 井家專田 關印

前書ノ儀私共罷出御願可申上等。御座候處家事多端ニ付大坂府下第五大區壹小區北平野町一丁目第二十九番地寄留京都府士族井田勵ヲ代人ニ任奉願上候然ル上ハ右井田勵ヨリ申上候事柄并ニ御受申上候事柄共後日ニ至リ私共ヨリ異議申上間敷候爲後証與印仕候

明治十年八月十七日

大和國第二大區三小區

平群郡西安堵村七百六十六番地

十六番地

亡猶吉ノ本家

小城宗三郎印

右同人ノ母

小城 三郎印

同區同村

亡猶吉方總本家

稻田藤九郎印

同區內東安堵村

亡猶吉ノ先妻實兄

岡野源三印

同區內西安堵村

總本家稻田藤九郎

ノ兄

藤平印

同大區一小區同郡與

留村 小川市 太郎印

亡猶吉ノ實從弟

福田宗太郎印

同國第一大區一小區

添上郡奈良多門町

亡猶吉跡相續人

小城カズノ實兄

小川市 太郎印

堺縣令稅所篤殿

一トキ儀ハ亡猶吉存生中明治元辰年寅月入家致シ明治五年月日入籍出入帳ニ記載ノ上舊奈良縣ニ差出且現時送入籍券ニ入嫁ノ明文有之當時戸長ニ於テ戸主カズ繼母ヲ以テ戸籍ニ登記シタ

レハ唯入籍ノ遅延セシ者ニテ猶吉死亡後入嫁シタル者ニ無之且本家ニシテカズノ後見タル小城宗三郎ニ於テモ曾テ該區正副戸長ニ差出タル書中トキ儀ヲ後家猶吉ヲ以テトキノ夫ト認ム依テトキ儀ハ猶吉後妻ト可心得候事

一トキ相續願取調候處該願書ニ連印ノ者親類總代ノ名義ヲ以署名致候ハ該書之趣申立至親族協議ニ出タル願ニ無之依テトキ相續ノ儀ハ更ニ相廢至當ノ相續人相撰親族協議ノ上可出願旨相達候條此段可心得候事

明治十年十一月五日

堺縣 御印

右ニ付相續人ト儀展原告小城トキニ協議及ヒタシ取合ハス又區

戸長ヨリ種々説諭有之タレモ承諾セサルヲ以テ明治十年十二月七日福田宗太其次男寅太郎ハ亡猶吉ノ再從弟先代「カス」ノ從弟ニシテ血統ノ者「付」カス死跡相續致サセ度旨堺縣廳ハ出願及ヒタル處左ノ第三號証ノ如ク指令相成タリ

第三號証

書面相續儀ニカス繼母「トキ」ト協議不成モノ「付」難聞届候事

但トキ及説諭處協議ニ至ラサルニ付其筋ノ裁判ヲ受ルモノ

トナス旨相達候條此段可心得候事

明治十二年一月廿一日

堺縣 御印

養子相續御願

大和國第二大區四小

區平群郡奧留村福田宗

太郎二男

福田寅太郎

右寅太郎儀ハ亡猶吉再從弟先代「カス」ノ從弟ニシテ

シテ右「カス」死跡相續可致者他ニ無之依テ今般親族一統協儀ノ上

前顯寅太郎ハ小城家親族中尤モ重親「カス」ヲ以テ右寅太郎ヲ養子

ニ賞ヒ受ケ跡相續爲致度候間此段御許容被成下度親族共一統連

署ヲ以テ奉願候也

明治十年十二月七日

大坂府下第五大區一小
區北平野町一丁目二十

前書ノ儀私共宜小御願可申上候處農業多忙付京都府士族井田
願ニ總代相頼候然ル上ハ右願ヨリ申上候事柄并御請申上候事
柄共後日ニ至リ私共ヨリ異儀申上問敷候爲後証與印仕候也
明治十年十二月七日

前願
大和國第二大區三小區

平群郡西安塔村
因テ明治十一年三月十八日被告共ニ
ノ勘解美仰キ
治十一年四月九日却呈原告小城トキ
載シ通シ裁判相成
回控訴及被被告カ相續人ト爲ス
小城トキノ
ト云テ可テ云テ主張ス

孫甥姪ニ限ラス同宗中血統ノ近キ者ヲ撰ミ相續セシムヘキヲトノ
 允當ナルハ明治六年第三百六十三號公布其他高知縣伺司法省指令
 等ニ依ルモ判然タリ即チ福田寅太郎ハ宗太郎ノ子ニシテ宗太郎ハ
 猶吉カ父方ノ伯父武平ノ子ナレハ猶吉ト宗太郎ハ從父兄弟コシテ
 寅太郎ハ猶吉カ從父兄弟ノ子ナレハ則チ新律綱領四等親ノ與屬親
 ニ該ル者ナリ故ニ右寅太郎チシテ相續セシムルハ條理上允當ノコ
 ト、考量セリ又原實小城トキ於テハ寅太郎ハ重症アリ廢疾者ニ均
 シケレハ之レカ配偶者トナルヘキ者無之ニ付將來該家チ繼承スヘ
 キ子女チ設ル能ハサルノミナラス終始十分ノ力作ヲモ爲スヘカラ
 サレハ農業ニ障害ヲ生シ之レカ爲メ他日該家ノ破産ニ至ルモ計リ
 難キ旨申立ントモ堺縣病院ノ診斷書ニ依リ尋常農家チ相續スル
 ノ任ニ堪ル者タルハ明瞭ナリ況ンヤ該症ハ此儘捨置トキハ不治ニ

屬ストアレハ即今療用チ加フルルハ全治スヘキノ症ナルヲ必然ク
 ルニ於テチヤ又原告小城トキ於テハ被告六名共ハ猶吉カ血脉ニモ
 非ス又尊屬ノ親ニモ非レハ該家相續ノ儀ニ參スルハ權利ナシ云々
 申立レトモ被告於テ左ノ第四号証ノ如ク原告小城家ニ關係アル
 者ナレハ該家相續ノ議ニ參ル其可否ヲ論辨スル固ヨリ相當ノ
 ト考量セリ
 第四号証
 右藤九郎ハ亡猶吉ノ實父平七ノ實兄藤右衛門ノ實子ニシテ亡猶
 吉ハ從父兄弟ニ該ル
 右藤平ハ藤九郎ト同シ

右ハ亡猶吉ノ實父平七ハ實弟武兵衛ノ實子ナルハ亡猶吉トハ從父兄弟ニ當ルニシテ

右勇次ハ宗太郎ノ實子ニシテ亡猶吉ハ從祖伯父ニ當リ亡カズトハ猶吉ノ妹ヲミノ子ヲサ則チ猶吉ノ外甥ニシテ且カズノ實母ヲシ

トシテ其ノ子ナルニ付母方ノ從弟ナレハ親五等ニ當ル

中右寅太郎ハ勇次ニ同シニ當リ其ノ關係不可キ者ナリ

右宗三郎ハ亡猶吉ノ實兄宗次ノ養子ニシテ同人實子キクニシテ夫

ノナレハ養家ニテ亡猶吉以姪ニ當ルナラズ原告小城家ノ本家

ニシテ當時原告家ニ所有スル家屋敷其他田畑及ヒ動産等モ宗三郎養家ノ祖父平七ハ實父ナリ并ニ養父宗次ハ實兄等ニ分與セシ所

ナレハ該家相續ノ義ニ素ヨリ關係不可キ者ナリ

被告人 岡野源三

右ハ亡猶吉ノ妻タミノ實兄

右市太郎ハ亡猶吉ノ妹ヲミノ子ヲシテ其ノ子カレハ猶吉ノ母方ノ

從祖父ニ當リ亡カズ市太郎ハ姉弟ナリ

抑本訴被告カ寅太郎ナシテ該家ノ相續セシメシテ決テ原告陳述ノ如

ク該家ヲ亡滅セントスルノ意匠アリニ非ス何トモ原告小城ト

キハ淫奔ニシテ屢密夫ト會合シ私生兒ヲ設ル等身持放蕩ニシテ該

家ヲ維持スルノ目途ナケレハナリ然ルニ原告小城トキ於テハ寅太郎病症云々ヲ辭柄ト爲シ同人ハ原告小城トキカ意ニ適セサル者ニ付若シ強テ該家ノ相続人タラシムルモハ之レカ爲メ親子ノ間日夜紛擾ヲ生スルハ必然ナリ云々申立レテ寅太郎カ病症ハ前述ノ如ク決シテ該家相続ノ障害ト爲ルヘキニ非レハ原告小城トキ於テ意ニ適セサル上ノ申立ハ全ク原告小城トキカ我意心ニ出テ者ト考量セリ前顯ノ次第ナレハ福田寅太郎ヲ以テ小城カズカ死跡相續致サセ候様裁判ヲ乞フ

判文

被告於テハ異喜太郎妹トキト猶吉密通シ男子猶次郎ヲ出產シタル後明治三年十月十日猶吉死亡セシニ付養女カズニ相續致サセ小城宗三郎後見原告小城トキ及ヒ兄異喜太郎ヨリカズノ厄介ニ加籍

致サセ吳度云々依頼ニ付猶吉存命中入籍ハ許サ、ル者ナレト既ニ出生セシ猶次郎モ有之ニヨリ明治五年二月三日入籍致サセタル旨申立ルト雖モトキハ猶吉カ後妻ニシテカズカ繼母タルコトハ被告第一號戶籍簿ニ繼母ト記載シアルコトハ被告第二號証塚縣指令第一項トニ於テ明瞭ナリトス又被告於テ福田寅太郎ハ猶吉カ從父兄宗太郎カ子ナレハ小城家ヲ相續セシムルハ條理上ニ於テ允當ナルニ付原告小城トキ於テ補欠相續ヲナスヘキ謂レ無之旨申立ルト雖モ凡戶主ノ父母タルモノハ其戶主死亡シ一家ノ内相續スヘキ子孫ナキキハ其父母ノ内生存セシ者ニ於テ直ニ該家ヲ相續シ追テ同宗最近ノ血統中ヨリ養子ヲ撰定スヘキ權利ヲ有スルハ勿論ナリトス則チ原告ハ先戶主カズカ繼母ニシテ其父母ト同一視スヘキモノナレハ「カズ」カ死跡ヲ直ニ相續シ追テ同宗最近ノ血統中ヨリ養子ヲ撰定ス

ルハ原告カ固有ノ權内ニシテ他ヨリ之ヲ差拒ムヘキ者ニ非レハ原告ニ於テ補欠相續ヲ爲スヘキ謂レ無之トノ被告申立ハ採用セヌ前條ノ理由ナルヲ以テ被告於テハ原告カ補欠相續ヲ差拒ムノ權利無之者ナリ 明治十一年十二月十八日 大審院ニ於テ

原告 小城宗三郎外一人上告ノ要領

第一條

抑被告「下」小城家ニ入籍セシメ明治五年ニ在リテ被告カ夫ナリトスル小城猶吉ノ没シタルハ明治三年ニ在リ然則「トキ」ハ猶吉没スル三ヶ年ノ後ニ於テ其後妻トナレキ理由ナク而シテ其後妻コアラ母ル者ハ猶吉ノ養女カズリ繼母トナル可キ理由ナクシテ大坂上等裁判所ニ差出タル左ノ第一號戸籍簿ニ繼母ノ二字記載シアルハ

當時主任吏ノ錯誤ニシテ法律上無効ト謂ヘシ

第一號戸籍簿寫左ノ如シ 高拾六石六升三合

明治三千年 家持 猶 次 郎

去ル午御改後猶次郎 年五十三歲

死去仕候 年十一歲

高拾六石六升三合

宗三郎後見

家持 小城 かす

年十三歲

三百七番屋敷

明治五年
申三月改

農 小 城 の す

明治八年九月卅日病死仕候

壬申十四歳

二月三日入

繼母

と き

天保五戊三月三日生

年三十五歳

當國 葛下郡王寺村
辰巳喜三郎妹

明治九年十二月五日戸主

亡猶吉

小 城 猶 次 郎

明治八年六月二日死病

壬申年一歳

明治八年
亥十二月十三日生

私生ノ男子
と き 長男

鶴 十 松

然ルチ大阪上等裁判所ハ單ニ第一号戸籍簿ニ依リ「トキ」ハ猶吉ノ後妻ニシテ「カス」カ繼母タリト判定アリシハ不法ナリト思考ス

第二條

大阪上等裁判所ニ於テ「トキ」ハ補欠相續ヲ爲スノ權アルモノトセラレ又原告「被告」ニ於テ補欠相續ヲ差拒ムノ權利ナシト判決セラレタレト未ダ我邦ニ於テ補欠相續ト云フ法律アルヲ不聞况ンヤ血統中現ニ相續スヘキ男子即チ福田寅太郎在ル有レハ煩ハシク女子ヲシテ補欠相續ヲ爲サシムルヲ要セサルニ於テチヤ現ニ我邦ニ於テ未ダ人民一般ノ相續法ナキモ明治六年第二百六十三號ヲ以テ華士族家督相續ノ義布告セラレタル第一條ニ家督相續ハ必ス總領ノ男子タルヘシ若シ亡没或ハ癡篤疾等不得已ノ事故アレハ其事實ヲ詳ニシ次男三男又ハ女子ハ養子相續願出ツヘシ次男三男女子無之者ハ血統ノ者ヲ以テ相續願出ヘシ若シ故ナク順序ヲ越テ相續スル者ハ相當ノ答可申付事トアリ此成文律ニ比準スルニ戸主没後實子ナキキハ血統中ヨリ相續人ヲ撰フヘキモノト思考ス且ツ夫レ相續人ヲ

撰定スルニ親族ノ協議ニ任スルハ一般ノ慣例ニシテ寡婦若クハ繼母ノ專斷ヲ許スノ規則アルナシ況ヤ被告トキハ寡婦ニモ非ス又繼母ニモ非サル厄介人ナルヲヤ將又相續ヲ爲ス者親族ノ連印ニテ出願シ或ハ雇書ヲ出スハ其事タルヤ該家ヲ保有スルヲ目的トスルモノニシテ親族ノ協議ヲ以テ相續人ヲ撰定ス可キ權利ヲ有スルモノナリ然ラハ則其親族タル原告人等ハ小城家ノ相續人撰定ノ議ニ參シ被告トキカ補欠相續ヲ爲スチ差拒ムヘキハ當然ナリ然ルチ前文ノ如ク判決ヲ與ヘラレタルハ不法ノ裁判ナリト思考ス

明治十二年四月七日原告稻田藤九郎外三人代人井上喜久治
原告小城宗三郎陳述ノ要領

一上告要領中ニ親族ノ協議ニ任スル慣例云々ト申立タル慣例トハ別ニ掲クヘキ比例無之候事

辨明

第一條

被告トキハ小城猶吉ノ後妻ニシテカズノ繼母ナルヤ否ヤノ事實ヲ推究スルニ本訴原告ノ豈人タル小城宗三郎カカズノ後見タル時ニ當リ正副戸長ニ差出タル書中ニ於テトキチ小城家ノ後家猶吉チトキノ夫ト認メタルハ第三號堺縣指合書ニ依リ判然ナリトス夫レ宗三郎ハ小城家ノ本家ニシテ當時ニ在テカズノ後見タレハ若シ原告申立ノ如クトキカ猶吉ノ後妻ニ非カリシナラハ其後妻ニ非サルトキチ小城家ノ後家猶吉チトキノ夫ト認ムヘキ理ナシ然ルチトキチ後家猶吉チトキノ夫ト認メタルニ依レハトキカ猶吉ノ後妻タリシ事實ハ判然トシテ見ルハ左スルハ明治五年ニ至リトキチ小城家ノ戸籍ニ記入セシハ全ク送籍ノ遅延セシニ由ルモノナルハ亦明瞭

ナレハトキカ明治五年ニ入籍シタリト云フヲ以テ猶吉ノ後妻タル
 事實ヲ消滅セシムルヲ得サルモノトス且ツトキハ猶吉ノ後妻タリ
 シ事實アルコト既ニ辨明セシ如クナルカ故ニ第一号戸籍簿ニモトキ
 チカズノ繼母トシテ記載シタリ夫レカズハ猶吉ノ女子ナレハトキ
 ニ於テカズノ繼母タルハ即猶吉ノ後妻タルノ明証ナリトス斯ノ如
 クトキハ猶吉ノ後妻タルコト明白ナレハカズノ繼母タルコト亦判然
 ルニ由リ大阪上等裁判所カトキハ猶吉ノ後妻ニシテカズノ繼母タ
 リト判定シタルハ適當ノ裁判ナリトス

第三條
 原告ハ大阪上等裁判所ニ於テトキハ補欠相續ヲ爲スノ權アルモノ
 トセラレ又原告^{〔控訴〕}ニ於テ補欠相續ヲ差拒ムノ權利ナシト判決セ
 ラレタレモ未ダ我邦ニ於テ補欠相續ト云フ法律アルヲ聞カスト云

トト雖モ被告カ大阪上等裁判所ニ差出シタル控訴狀第一條ニ家ハ
 常ニ戸主ナキヲ得ズ故ニ其相續人ヲ撰定セサル事故ノ如何ヲ問ハ
 ス之レヲ撰定スル迄ハ相續ヲ爲スヘキナリ是レ補欠相續ナル者ノ
 主意ナリトアルニ依レハ被告ハ申立ハ小城家ノ相續人ヲ撰定スル
 迄ノ間相續ヲ爲シ相續人トシテ補欠ノ意ナリトス而テ原告カ控訴
 答書第二條中ニ福田寅太郎ハ尙猶吉并カズノ親族トシテハ何ソト
 キ補欠相續ヲ爲スニ及ビンヤトアレハ原告ニ於テハ被告トキハ補
 欠相續ヲ爲スヲ拒ミタルモノナレハ大阪上等裁判所ハ被告^{〔控訴〕}ニ
 於テ補欠相續ヲ爲スヘキ謂ハ以無之旨ヲ原告^{〔控訴〕}申立ハ採用セズ
 又原告^{〔控訴〕}ニ於テハ被告^{〔原告〕}カ補欠相續ヲ差拒ムノ權利無之者ナ
 リト判決シタレモ左ノ同裁判所判文ニ於ル補欠相續トハ小
 城家ノ相續人ヲ撰定スル迄ノ間相續ヲ爲スヲ謂フモノナルコト判然

タル上ハ補欠ノ文字ノミニ拘泥シテ補欠相續ト云フ法律ナシト云フヲ以テ同裁判所ノ判決ヲ不法ナリト爲スヲ得ス
 第三條
 原告ハ血統中現存相續スヘキ男子即福田寅太郎在ルアレバ煩ハシク女子ヲ以テ補欠相續ヲ爲サザムルヲ要セザル旨申立ルト雖モ福田寅太郎ハ小城猶吉ノ實父ナル平七ノ實弟武兵衛ノ孫ナルモ武兵衛ハ福田家ニ養子トシテ養育シテ育チ現存福田家ニ在リ小城家ニ財產ヲ異ニスルハ直ニ小城家ヲ相續スルキ男子ト謂フヘキモ以テ非ストス之ヲ反シ被告小城トキ「カズ」ノ繼母トシ「カズ」死去シ同家ヲ相續スルキ子孫ト爲シ時ニ當テハ追テ相續ト爲スヘキ養子ト撰定スル迄ハ問ハズ「カズ」ノ死跡ヲ相續スヘキ者ト爲トス故ニ大坂上等裁判所ハ被告「カズ」ヲ以テ「カズ」ノ死跡ヲ直ニ相續スヘキモノト

爲シタルハ條理ニ適シタル裁判ナリトス
 第四條

原告ハ明治六年太政官第二百六十三号布告ニ準據シ戸主没後實子ハ其血統中ハ相續人ト撰定シテモ其思考ニ云フ雖モ明治六年第二百六十三号布告ハ華士族ノ家督相續ニ限リタル法律ナリトモナラズ其第十條ニ家督相續ニ必ス總領ノ男子タルヘシ若シ官没或ハ癡篤疾等不詳已ニ事故ヲレテ云々タル亡没ハ總領ノ男子ハ亡没シタル場合ヲ指スモノトテ戸主カ亡没シタルハ謂フモノト非ナル由國平民ニテ戸主トシ小城カズカ没後ハ相續人ト付テノ準據ト爲スルキ法律ハ非スト小城カズノ没後ハ其遺言ニテ其繼承人ニ第五條ニ規定セザルニテ其繼承人ト爲スルハ一般ノ慣例ニテ原告ハ相續人ト撰定スルニ親族ノ協議ニ任ズルハ一般ノ慣例ニテ

夫寡婦若夫之繼母之專斷ヲ許スノ規則アリナシ云々申立テ雖手
 相續人ヲ撰定スルニ繼母ヲ除キ親族ノニ協議ニ任ストノ慣例ハ之
 ヲナキモ然ト然且夫シ被告「小城トキ」ハ小城家ノ相續ヲ爲スヘキ養
 子ヲ撰定スル迄以間「芳次」ノ死跡ヲ相續スル者ナリ其第三條ニ辨
 明セシ如ク「土」ハ原告ニ於テ之ヲ拒ムル條理ヲ見ヨ自ラ明瞭ナ
 ル自由並大坂上等裁判所「原告」控訴「被告」於テ被告「原告」相續ヲ爲
 ンテ差拒ムル權利ヲ得テ判決シテ此等不法ヲ裁判ニ非スナス
 前條々ノ如ク計ルヲ以テ大阪上等裁判所「被告」破毀スルキ理由ナ
 キニ付テ大阪高等裁判所「原告」控訴「被告」於テ被告「原告」相續ヲ爲
 ンテ差拒ムル權利ヲ得テ判決シテ此等不法ヲ裁判ニ非スナス
 第七拾九號判決
 ○預地所并德米取戻一件東京上等裁判所ノ裁判

不法正告ノ判文明治十一年十二月廿日申渡
 原告 岐阜縣下美濃國席田郡 佛生寺村平民 鶴飼又四郎
 被告 岐阜縣下美濃國席田郡 佛生寺村平民 鶴飼トク
 東京府麹町區有樂町三丁目
 原告 東京府芝區愛宕町二丁目
 被告 東京府芝區愛宕町二丁目
 目壹番地寄留廣島縣平

東京上等裁判所ノ審判

右代人 正

原告

鵜飼トク

代言人 山井道正 控訴要領 明治十一年六月十三日

本訴ノ起因ハ安政六年十二月中原告夫鵜飼常助病死セシ事付後家
 ニテ名跡相續致セシ處其前夫常助存生中原告實姉四男音市ナル者
 ナ幼年ノ時ヨリ賞受ケ養育シ居リ常助死後至音市儀出家
 得度ヲ望ミシヲ以テ常助菩提ノ爲メ必得伊斐國山梨郡菱山村光
 林寺住職ハ兼テ懇意ニ付右寺ニ連行キ出家得度ヲ受度旨頼入レ原
 告於テモ右菩提ノ爲メ諸國神社佛閣巡拜志願旨元治元年十二
 月ニ至リ組合親類ニ談シ原告留守中控家屋敷并耕池等ニ至ル迄
 預リ支配致シ吳ル旨一同協議相整旨原告控高八石六斗六升四

勺ノ内治郎吉ナル者ヨリ買得タル分高貳石四斗八升八合ハ旅費ノ
 爲メ賣拂ヒ殘高六石壹斗七升貳合四勺外ニ堀部佐太郎ナル者ト仲
 間持耕地高壹石四斗五合鵜飼増藏ナル者ト仲間持ノ耕地高壹石三
 升四合并ニ住家共被告先代鵜飼又四郎同増藏堀部多三郎同惣三郎
 同源助同佐太郎都合六人立會ニ主被告先代又四郎持參帳簿點記
 入茲有家屋敷耕地原告留守中被告先代又四郎持於テ支配分德米五
 モ預リ置ヘキ約束ニ付安堵ノ上甲斐國ニ罷越シ音市ハ右光林寺弟
 子ニ相成原告モ同寺ニ雇ハレ又諸國神佛巡拜等モイタシ明治九年
 十月ニ至リ歸村ノ上被告又四郎方ニ行キ處死代又四郎ハ已ニ死
 去シ被告又四郎戸主ト相成居シ付同人ニ預メ財産儀尋問及ヒ
 シ處豈圖ラシヤ原告ハ最早除籍セラレシ旨申聞ルニ依リ大ニ驚愕
 今更先非後悔取敢ス岐阜警察署ニ自首シ及ヒ明治十年九月

十日松本裁判所岐阜支廳ニ於テ左ノ如ク申渡サレタリ
第五號証

岐阜縣美濃國席田郡佛生寺村平民鵜飼常助後
家當今無籍
其方儀本籍ヲ脱シ逃亡シテ三年以外ニ及リ科逃亡律ニ依リ懲役
八十日ノ杖贖金貳圓可申付處復歸自首スルニ付改定律例第六條
ニ照シ叱責置之
松本裁判所
明治十年九月十日
岐阜支廳

然シテ當村戸長へ自分入籍ノ旨命セラレ即チ鵜飼常助後家とくと
復籍相成タリ因テ常助跡目相續ノ爲メ被告又四郎へ預ケ置タル耕
地并ニ慶應元年ヨリ明治十年迄ノ徳米共返戻ノ義申出シニ被告又
四郎ニ於テ原告ハ常助方ニ聊因縁ハ無之已ニ離別ニ相成タル者へ
返地スヘキ謂レナシナト、不法申張リ少モ取合ハサルニ付名古屋
裁判所岐阜支廳へ出訴セシ處同廳ニ於テ被告ノ証トスル人別増減
取調帳ニ故郷歸リトアルヲ確實ト認定セラレ原告請求ノ權利ナシ
ト判決ヲ下サレタレトモ抑被告証トスル人別増減取調帳ハ被告先
代又四郎カ自記スル所ニシテ憑據ト爲スヘキ証トニアラス何トナ
レハ被告ノ家ハ祖先ヨリ先代又四郎ニ至ルマテ佛生寺村ノ里正ニ
テ村内ノ事大小トガク自己ノ掌中ニ左右スルヲ得ヘケレハナリ故
ニ該帳ニ故郷歸リト記載スルモ素ヨリ被告ニ於テ其願ヲ爲セシ証

據ナク又原告ニ於テ如此キ願ヒキ爲スノ謂レナシ且以當時ノ法凡
 テ除籍ヲ爲スニハ必ス隣伍ノ連署ヲ取ルヲ要ス然ルニ被告ニ於テ
 ハ管ニ其連署ヲ取ラサルニテ大ラス原告故郷中西郷村村吏ニ對シ
 何等ノ報告ヲ爲シタルコトナシ其証書左ク如シニマシテ
 第二號証
 記
 方縣郡中西郷村
 文助妹
 有之者嘉永四辛亥年席田郡佛生寺村鵜飼常助妻ニ縁付參リ候節
 當村ニ送籍差遣ニ置候處其後當村ニ者復籍ノ儀ハ更ニ無之候

也

右村戸長

明治十一年三月十七日

村 瀬 寛 吾印

右ノ次第ニテ何處ニ返籍シタルカ毫モ其証跡ナシ由是觀之被告先
 代又四郎ノ恣擅ニ出テシテ明ナリ然ラハ則原告ニ於テ鵜飼常助後
 家トシテ復籍シタル上ハ被告ニ預メ置タル財産ヲ取戻スヘキ權利
 充分ナルモノト固信セリ因テ至當ノ裁判ヲ請フ

被告鵜飼又四郎代人鵜飼惣七答辨ノ要領

原告鵜飼トク儀ハ元下被告亡祖父又四郎ノ養次男鵜飼常助ノ妻ナ
 リシカ安政六年常助死亡ニ付其養長男音市ナル者跡目相續セシ處
 原告トシテ義常助死亡後兎角僧侶ニ姦通シ行狀善カラヌ元治元年八
 月中相續人音市ヲ引連シ古郷歸リ致シ度旨申立ルニ付親族協議シ

上亡父又四郎ヨリ分與シタル地所ハ亡父又四郎へ返シ其他ノ財産及ヒ常助存生中買得タル所ノ地所家財等ハ悉皆賣却シ其代價ハ原告トクヘ渡シ而シテ舊地頭戸田鐵之進地方陣屋ハ願濟ノ上相續人音市ト共ニ古郷歸リ致サセタルニ因リ亡常助ノ家ハ斷絶相成タリ其証書左ノ如シ

第一號証

安政七申年改正切支丹宗門改帳寫

中 西郷村西本願寺宗

一 專宗寺(印) 且那 音市母

佛生寺村禪宗曹洞派

一 悟春院(印) 且那 家主

音市(印) 歲九ツ

第二號証

安政七申年改正宗門改五人組帳寫

家主歲九ツ

一 乙市 (印) 生所

彦根御城下 瓦焼上町

佛生寺村禪宗曹洞派 悟春院

母歲四十

一 乙市 (印) 生所

戸田孫十郎様御 西郷村西本願寺宗專宗寺 知行所中西郷村

家内ハ二人

前後組合畧之

組親

彌 兵衛印

小 右衛門印

藤 三郎印

榊 三印

五人組家内ハ五拾五人

惣三郎印

利七印

毛七印

心七印

忠右衛門印

乙市印

堀部源助印

家數合九拾軒

壹軒家主

緣付候二付絶家

人數合四百拾人内

男二百七人 女二百三人

増人拾七人内 男九人 女六人

外

減人拾壹人内 男五人 女六人

内

佛生寺村

組頭

安政七庚申年三月廿六日 佐太郎印

同郡同村

同郡同村

嘉兵衛印

同郡同村

庄屋

第三號

元治二丑年宗門改五人組帳寫

家數合八拾九軒

御奉行所様

鶴飼又四郎印

外

壹軒

乙市家内二人子八月奉願古郷歸

人數合四百九人内

男二百拾六人
女百九拾三人

内

增人九人内

男六人
女三人

外

減人六人内

男二人
女四人

第四號

元治七申年人別増減帳寫具

中

同郡同村

堀部源助印

宗門改五人組帳寫

元治七申年人別増減帳寫具

鶴飼又四郎印

元治七申年人別増減帳寫具

第四號

元治七申年人別増減帳寫具

一常助...未十二月病死
第五號

元治二丑年八別増減帳寫

〔前畧〕

家主乙市母トク二人 子八月奉願古郷歸リ仕候

〔中畧〕

家數合八拾九軒

外

壹軒 乙市家内二人子八月奉願古郷歸リ仕候

付絶家仕候

前陳ノ如ク原告ハ家名ヲ絶シ財產ヲ賣リ古郷歸リ仕候

然ナリ又原告ニ於テ初審裁判所審問以節左ノ如ク供述シタリ

一自分儀明治十年九月中常助跡ニ復籍致ス心得ノ處又四郎ニ於

テ差拒ムヲ以テ同人相手取リ岐阜區裁判所ニ勸解願出テタレハ
又四郎是於テハ常助跡ニ復籍以儀者他迄差拒ムヲ以テ御説諭ニ
日基先ツ佛生寺村ニ入籍ト相成リテ未タ常助跡出申ス
モハ之ノ所候所(印)ニテ原告ハ實業科陳手等ニ御審問被
右陳述ニテ原告ハ常助ノ相續人ニアラセタリト明カレハ被告ハ
對シ預テ地所并ニ德米法取戻スノ理由毫無之ヲ思考セリ原告ハ
原告判文...
被告ニ於テ原告請求スル亡鶴飼常助ノ遺物タル地所ハ根元被告方
ヨリ分與シタル者ニテ常助死去後元治元年中原告ハ子乙市ヲ召
連原告ハ實家中西郷村ニ立歸其節常助遺物財產以內被告ヨリ分與
シタ地所ハ被告ニ差戻其地ハ財產ハ總テ原告カ賣却シ亡鶴飼
常助ツ家ハ此時斷絶シタリト原告ハ鶴飼家ヲ去リ實家ニ立

涙ヲ以佛生寺村除籍相成リタルモノニ付此鵜飼常助之遺物
 タル地所該請求タル多難無之旨申立レモ抑原告ハ鵜飼常助之妻ニ
 該遺物死後常助ノ相續者トシテ被告第貳號証ノ通リ乙
 市ナリ其乙市ナリ者カ原告共該元治元年於佛生寺村寺立出
 願古郷歸功仕候ニ付絶家仕候トアリ被告第五號証ニ家主乙市母ト
 活郷返ル中西郷村へ入籍シタル証ナリ又原告カ鵜飼家ヲ離縁ニ
 ナリタルノ証ナリ被告提供スル原告ノ實家村瀬平作カ初審裁判所
 口供寫第七項ニ右除籍及儀ト依テ來リ取調吳シテ被告申付村方
 ノ帳簿取調貫テ被告歸籍時相繼居テ申付アリ原告第五號松
 本裁判所岐早改廳宣告狀ニ佛生寺村平民鵜飼常助後家當今無籍ト

其方儀本籍該脫シテ三年以外云々復歸自首スルニ付云々ト又
 原告第三號佛生寺村戸籍簿ニ元常助後家鵜飼トクナルヲ以テ是
 以テ原告ハ乙市於元治元年於佛生寺村ヲ脱籍該原告並明治十
 年於該復歸時之代該以功及白備地及財產ハ乙市カ相續ニ當時
 乙市於所有ニ相成リタル証付被告カ該遺物ナリト云々
 地所該常助遺物ニ非ズテ乙市ノ遺物ナリト云々而シテ乙市
 該已財產ヲ本家カ被告ニ差戻シ該証ノ証無之被告カ該常助及
 遺物ナリト云々預メ居地地所未相續者確定シ該証者ニ付被告ハ
 預メ地所其所有主トシテ乙市於脱籍後復歸時該証乃チ乙市ノ遺物
 ナルヲ以テ乙市母タル原告カ復籍ノ上ハ乙市ノ遺物ヲ相續スルハ
 至當ト云々付被告カ該常助及遺物ナリト云々預メ居地地所原告請
 夫該通該原告へ可相渡モノト可心得候事 明治十一年
 十一月十四日

大審院

原告鶴飼又四郎代人米本左右平上告ノ要領 明治十一年
三月廿日

東京上等裁判所ニ上告人カ証トセル第三號及五號証ニ乙市及母
時被告原少乙市カ其古郷タル中西郷村へ入籍シタルヲ証テ以又
鶴飼家ニ離縁シタルヲ証ナシト云ヒ又初審裁判ノ引合人村瀬平作
時ノ舊慣場証切支丹宗門改帳及宗門五人組帳ツ如キハ眞實重要
帳簿ニシテ人民生死ヲ增減ニ係婚嫁ノ出入ニ至テ迄悉ク登記セサ
ルヲ以目今此籍帳ニ逐箇一層綿密ニ加テタルモナリ如是重
要ノ帳簿ニ證明並ニ御願止古郷歸郷証記載シアルト被告ハ元治

元年子八月ヨリ鶴飼家ヲ去リタルモニテ該家ヲ斷絶セシメ判然
ト東面ニ差離縁証如前ハ當時被告夫常助死去後ナシハ別ニ離
縁狀ヲ出スヘキ理由ナキハ亦舊慣ニ然ラシタル處ナリ況ンヤ切支
丹改帳中ニ記載スル古郷歸郷証語當時ノ舊慣上夫ノ家ヲ離別
スル其實家ニ歸ルニ云フニ意味ナク明カニ其ヤ又被告カ古郷
中西郷村ニ戸籍ニ登記ナキ事柄非シハ固ヨリ此事柄ヲ以テ上告
告然中西郷村ニ歸着セシ中途中途ニ他國へ脱逃セシ故ニ據ル手
敢テ上告人カ關知シテ其事柄非シハ固ヨリ此事柄ヲ以テ上告
人以証據書ニ効力ヲ打消スヘキ事ニモアラサルニ及ビ且初審裁判
所引合人村瀬平作カ口供ニ親族相容隱スルノ情ニ及ビ發見者
ルノ言ナシハ是亦上告人カ陳述ヲ打消スノ引援ト爲スヲ得サルヘ
シ因テ東京上等裁判所ノ判決ニ舊慣ヲ探窮セサル皮相ノ裁判ニシ

テ即チ審理不盡ニ裁判ナリト思考スルニ
 第三條 被告ハ原告ノ遺言ニ依リテ
 東京上等裁判所ニ松本裁判所岐阜支廳ニ刑事ノ宣告狀ヲ以テ被告
 九鶴飼家ヲ脱籍セテ又鶴飼家ニ復歸シタリトシテ證據ヲ認定セザル
 事柄トシテ判決シ候旨籍上ニ關シテ文書證據トシテ可クサルニ理以尤モ
 見易キ處ト然ラズ則チ假令此宣告狀或ハ鶴飼常助後家或ハ其方儀
 本籍ニ脱シ云々ト記載スルニ是レ刑事裁判ノ例文ニ及テ其重要
 唯近年以外郷管ニ脱スル罪如何ニ裁斷スルニ及テ殊ニ此宣
 告文ハ被告カ一己以自首ニ由リ其處分ヲ申渡サレタルニテ故
 ニ東京上等裁判所於此事柄ヲ以テ原告ノ責ニ於テ證據ヲ看認シ
 沙汰スルハ不當ノ裁判ト言ハサルヲ得ヌ因テ原裁判ヲ破毀ヲ請フ

被告 鶴飼トク代 人 山中道正 答辨ノ要領

第一條

上告狀ノ旨趣ニヨリテ原告ハ本件ノ争點ヲ誤リタルモノハ如何
 トナシ本件ノ主旨タル被告ノ身ハ業ニ已ニ常助ノ家ニ復歸シ常
 助ノ後家ト確定シタルモノナレハ其家ノ財産即チ原告ニ附托シ置
 タル財産ヲ取戻スノ點ニ決シテ未タ復籍セサルノ前又ハ既
 ニ復籍スルノ後ニ於テ其復籍ノ當否ヲ争フモノニアラス故ニ原告
 ニ於テ此財産ノ引渡ヲ拒マント欲セハ自ラ其所有權アルコトヲ証明
 セサルヘカラス然レモ原告ハ此財産ヲ私スルノ名ヲ避シカ爲鶴飼
 德三郎ナルモノニ之ヲ相續セシメントスルノ意ナルコトヲ飾言スル
 位ナレハ其己レニ所有ノ權ナキコトハ既ニ覺悟セシモノナリ然リ而
 シテ今原告カ証トスル第三號及ヒ第五號等ノ帳簿タル縱令ヒ之ヲ

信スヘキモノト假定スルモ既ニ確乎復籍セシ被告ニ對シ財産引渡
 チ拒ムノ証トナルヘキモノニアラス且又該帳簿ニ奉願トアルモ其
 願チナセシ証ナク古郷歸ト記スルモ其古郷ニ歸リタルノ証ナク子
 八月奉願トアルモ被告カ佛生寺村ヲ出立セシハ慶應元年正月ナリ
 加之其帳簿ハ原告亡父ノ編製セシモノナレバ被告ニ抗スヘキ証據
 トナスヘカラス殊ニ當時夫常助既ニ死シ被告チ離別スヘキ人ナク
 又誰カ有産ノ家チ自ラ棄去ルヘキ道理アラシヤ又原告ハ舊慣ト云
 フチ以テ上告ノ主要トスレモ其果シテ舊慣ナルコトヲ証スヘキモノ
 ナシ抑又第三號第五號等ノ帳簿ヲ以テ離別古郷歸リテ証セシト欲
 セハ何カ故ニ最初復籍シヨニ付勸解願チ岐阜區裁判所ヘ願タル節
 飽迄モ復籍ヲ拒マカリシヤ畢竟該帳簿記入ノ實ナラサルコトハ原告
 モ自ラ信スルガ故ニ此復籍ヲ認許シタルハシ故ニ今日ノ爭點

ハ復籍ノ當否ヲ爭フノ場合ニアラスシテ原告ノ許諾ニヨリ既ニ復
 籍シタル被告カ其家ニ属スル財産ヲ取戻スル場合ナリ又安ソ該帳
 簿ニ用アルハ是ハ原告カ東京上等裁判所ニ採用ヲ得ザリシ所以ニ
 シテ其裁判ハ深ク實際ノ情狀ト法理ヲアル所ヲ推窮セラレタルモ
 シニ至公至明ノ裁判ヲ思考スルハ原告ノ利益ニ對シテハ
 第三條ニ依リテ其利益ヲ保護スルハ原告ノ利益ニ對シテハ
 原告松本裁判所岐阜支廳ノ宣告文ヲ以テ証トナシ足ラサルモ
 原告乃チ曰ク然全ク刑事上ニ關スルノ事柄ナレバ決シテ戸籍上ニ
 關スル文書トナシ可ラス又曰ク是レ刑事裁判ノ例文ニシテ其主要
 ナリ唯三年以外郷管ヲ脱スルノ罪如何ヲ裁斷スルニ於テ又曰ク
 「被告ガ一己ノ自首ニ由テ其處分ヲ申渡サレタルモノナリ」ト此言ヤ
 妄言ニ過サレバ何レモ此宣告文タル全ク戸籍上ノ處分ナレ

ハ其戸籍ノ實跡ヲ審明シ之カ實事ヲ認ムルニアラサレハ此宣告ヲ爲ス能ハサルヘシ如何ノ之ヲ戸籍上ニ關セサルモノト云フヘケンヤ又如何ナル刑事ノ裁判ニテモ其宣告文ニ事實ノ有無モ實サズ勝手ノコトヲ記載スルノ例文アラシヤ原告モ該宣告文ハ二年以外郷管ヲ廢スルノ罪如何ヲ裁斷セシノミト云フヲ以テ見レハ專ラ戸籍上ノ處分ナルコトハ既ニ知得シタルナリ且此處分ハ素ト被告カ自首ニ由ルト雖モ原告モ岐阜警察署ニ呼出サレ當時彼レハ今日ノ如ク甚シク事實ニ背反セルノ言ヲ吐ク能ハサリシヨリ深ク實際ノ事情ヲ明察セラレ該宣告文ノ記載アルニ至リシナレバ原告ノ供述ヲ打破スルニ十分ノ力アル證據ナリ然ラハ則東京上等裁判所カ之ヲ採用セラレタルヲ以テ不法ノ裁判ト爲スヘキ理由アラサルベシト思考ス

上告ノ主點ハ左ノ一項ニ在リトス

東京上等裁判所ハ「トク」及乙市カ其古郷タル中西郷村へ入籍シタルノ証無シト裁判セラレタルモ宗門改五人組帳ニ御願ノ上古郷歸リト有レバ元治元年子八月ヨリ鶴飼家ヲ去リシハ判然タリ殊ニ「トク」ハ夫常助カ死後ノ離縁ナレバ離縁狀ノ有ルヘキ理由モ有ルヘカラス而シテ當時中西郷村ハ戸籍帳へ登記無キハ上告人カ關知スヘキ事柄ニ非ス「トク」ノ事

辨明

夫「トク」ハ鶴飼常助カ妻ニテ其常助ハ安政六年十二月中病死其後元治元年十二月中常助カ養子乙市ハ出家ヲ遂ケ度懇望ニ依リ「トク」カ乙市ヲ召連シ甲斐國山梨郡菱山村光林寺へ立越トク「トク」ハ夫ヨリ諸國神佛巡拜シテ明治九年十月立歸リタルハ既ニ除籍ト成リ居タル

ヨリ驚入先非ヲ悔ヒ本籍ヲ脱シ逃亡シタルヲ自首シテ其處分ヲ請ケタリト云ヒ上告人ハ安政七年改正切支丹宗門改帳及ヒ宗門改五人組帳ヲ証憑トシトクハ佛生寺村ヨリ中西郷村ニ古郷歸リセシト云モ抑常助カ死後ニ離縁ニ有ルヘカラサルコト勿論ナリハ若亡常助カ親類ニ遺トクヲシテ常助カ死後ト雖モトクカ身上ニ付餘義無キ故障有ルヲ以テ双方親類熟談ノ上實家へ立歸ラシメタルモノトスレハ先其手續ヲ做セ証憑有ルニ非レハ古郷へ立歸ラシメタリトハ看認メ難ク既ニ乙市ハ常助カ養子ナルコト控訴ノ際原被カ是認シタルハ乙市ニ於テ常助カ養子タルハ動サルモノナリ左ニハ常助カ死後ニ即相續人ニシテ其相續人カ故無ク實家へ立歸ル理由モ有ル可カ然レ時ハ設ヒ宗門改五人組帳ニ乙市家内二人子八月奉願古郷歸ル仕候ニ付絶家ト存ルモ他ニ視ルヘキ証憑有ルニ非レハ

之レノミヲ以テ確認スルヲ得ス因テ到底トクハ亡常助カ相續人乙市ヲ召連元治元年佛生寺村ヲ脱籍シ而シテトクハ一人カ立歸リ明治十年十一月十七日復籍シタルモノニテ乙市ハ未脱籍中ノモノナレハ東京上等裁判所カ相續人ハ未確定迄尙モ付被告ノ預リ地ハ其所有主タル乙市カ脱籍シ復歸セザルニハ乙市ハ遺物ナルヲ以テ乙市ノ母タル原告カ復籍ノ上ハ乙市ノ遺物ヲ相續スルハ相當ナルニ付被告カ亡常助ノ遺物ナリトシ預ル居地所ハ原告請求ノ通原告ハ可相渡モノト可心得事ト裁判シテ不法ヲ裁判ニ非スト

ス

○判決 東京上等裁判所 乙市ハ遺物ナルヲ以テ乙市ノ母タル原告カ復籍ノ上ハ乙市ノ遺物ヲ相續スルハ相當ナルニ付被告カ亡常助ノ遺物ナリトシ預ル居地所ハ原告請求ノ通原告ハ可相渡モノト可心得事ト裁判シテ不法ヲ裁判ニ非スト

前條ノ理由ヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ筋ナキモノト

ス

但訴訟入費ハ原告ヨリ被告へ償却致スヘキ事
第八拾號

○復籍一件東京上等裁判所裁判不法上告ノ判文
明治十二年五月十七日上告明治
七年中渡

東京日本橋區蠣壳町三丁目貳拾番地平民
原告
同神田區神田錦町舊三丁目
被告
栗田昌由
東京上等裁判所ノ審判

原告ト土田(オナ)死去其訴訟ヲ繼續セル遺子土田清治幼年ニ
付尊屬之親栗田昌由外六名代官人皆川四郎控訴ノ要領
明治十一年五月廿三日
土田(オナ)ハ栗田守利ナルモノ、子トシテ明治元年中土田又次郎ヲ養
女トナリ後又次郎病死シヨリ養母(又次郎)トシテ菅原正延ノ男正展
ヲ養子トカシ之ニ家督ヲ讓リ(オナ)乃夫之ガ配耦者ト成リ明治七年
二月中長男清治ヲ分娩シシニ其後養母(オナ)正展ニ離縁シ自ラ戸主
トナリ尋テ病ヲ罹リ危篤ニ迫リ際ニ又次郎ヲ義妹野村(オナ)ニ被告
信清ヲ伴ヒ來リ家事ヲ助勢ヲ囑托シテ如何ノ談シアルニ其意
其意等從ヒ明治八年七月十日ニ時止宿ヲ設テ置テ其後被告ト
キ明治八年七月十二日(オナ)遂ニ病沒セリ然レニ(オナ)其後被告ト
密通シテ其謀リ被告ハ之ニ乘機自ラ戸主トナルノ屈ヲ爲シ加之放蕩

無頼更ニ生業ヲ事トセズ一家爲メニ頽敗セントスルに至リシニ
 本件復籍ノ訴訟ニ及ビシ處被告「イナ」ノ實兄栗田昌由カ証印セシ
 被告第三号送籍書并親族タル永野良和カ証印セシ被告第四号証書
 以テ「イナ」養母「クニ」生存中ノ養子ナレハ即ニ「イナ」ノ夫ニシテ土田家
 ノ戸主ナル旨主唱スルト雖也明治九年太政官第五十八号公布ヲ以
 テ子女アル寡婦夫ヲ迎ヘテ前夫ノ跡相續人ト定ムル等ハ禁止ス
 ルノ制ナレハ仮令被告「イナ」原告「イナ」夫ナリトスルモ現ニ遺子アル
 「イナ」ナレハ成法上之ヲ該家ノ戸主トスルヲ得ス故ニ其事ノ該公布
 以前ニ係ルモ今日ヨリ之ヲ視レハ該公布ノ旨意ニ抵觸シタル者ナ
 リ況ンヤ被告カ土田家ニ來リシハ明治八年七月十日「イナ」養母「クニ」
 カ死セシ公明治八年七月十五日ニシテ其間僅カ三日ヲ隔タルニ
 過サルノ旨ナラバ當時「クニ」病危篤ニ際ニテ親戚協議カ勿論實際

結婚ノ手續ヲ爲シ得可カラサルノ實況ナルニ於テオヤ殊ニ「クニ」死
 後「イナ」戸主タリシハ所管ノ役所ニ届ケ戸長モ之ヲ承認シ左ノ
 第一號証ノ如ク其戸籍簿ニ登記シタリトシ「イナ」夫ナリトスル
 第一號証「イナ」戸籍簿ニ「イナ」夫ナリトスルノ記載アリシハ其
 戸籍簿ニ「イナ」戸籍面抜書ニ「イナ」夫ナリトスルノ記載アリシハ
 「イナ」東京府主族栗田昌由妹「イナ」妻「イナ」前「イナ」
 然ルニ所轄區務所ニ於テ既ニ戸主タル「イナ」承諾否ニ親族ノ協議
 ヲ否ヤシテ問ハズ漫然之ヲ取消シ更ニ被告カ戸主トシ届ケ夫該戸
 籍簿ニ登記セシトハ錯誤云々然レ且被告第三號証「イナ」送籍書ニ
 「イナ」實兄昌由カ調印シタリハ其實昌由不在中被告ニ於テ昌由ノ父
 守利「イナ」押捺シタルニテ昌由ハ固ヨリ知ラザリシハ既

子証 依令昌由カ調印ヲシテ承諾上ニ出テタ西モロ成スルモ其調印
 ハ事實ヲ調査セザルノ粗漏ニ出テタカ否テサレハ被告甚馴合ヒ
 又右養母クニ生存中云々ト云レドモ被告カ原籍ノ戸籍簿ニハ七月
 十二日ニ登記シテ死リ而シテ其七月十二日ノ午前第三時ニハ病
 没セリ然ラハ則チ其送籍ハ死後ニ係リ生存中ノ養子ニ非サル
 明ニシテ被告第三號証ニ甚難信モノナリ且該送籍ヲ編入セシハ
 九月ニシテ死後二ヶ月間ノ後ナレハ其戸籍登記ナキ以前ハ
 被告ハ決シテイナノ戸籍中ノモノニ非サルナリ夫レ如此被告ハシ
 生存中ノ養子ニ非シテモ之レハ「イナ」ノ夫ナリトスルモ前夫
 正展ノ相續ヲ爲ス可キ順序ナルヲ以テ之ヲ如何シテ律例ニ違背セ
 然レト云テ得シヤ彼等被告第四號証如キハ被告カ私擅ヲ所爲ニ出

タルナ以之ヲ督責セシヨリ本訴ヲ起シタルモノナリ又被告第五號
 証第六號証ノ如キハ昌由ノ父守利ノ自筆ニシテ被告ニ示シタリト
 雖其手續ノ「イナ」ノ夫タルヘキ正當ノ式ヲ行ハサレハ此
 等ヲ以テ結婚又ハ戸主タルヲ証ト爲スヲ得サルナリ然ルニ東京裁
 判所ニ於テハ被告第三號証ニ親族タル栗田昌由カ調印シ猶第四號
 証ニ同永野良和カ調印シテ以テ該書面ノ事項ヲ付交シ之カ相
 違オキヲ確認シ其保証ヲ爲シタル者ニ被告「イナ」ニ生存中ノ養子
 ニシテ「イナ」カ夫タルヲ以テ律例ニ違背セシト田家ノ戸主ナリト
 判決セラシタリ是不服ナル所以ナリ然レドモ被告「イナ」ニ養子
 トシテ被告「土田信清」代ハ茂手木慶信答辨シ要領ニ第二號証、
 被告ニ於テ「イナ」カ養母土田「クニ」カ篤疾ノ際土田家ノ親族ト永野
 利「イナ」カ田家養子ト頼談ナルニ應シ右「イナ」ノ實以

國書八五編其長

養家親族上

田 昌 山印

地所差配人

此坪百六十四坪
 第四號証
 一表問口
 裏裏
 裏裏
 行
 此坪百六十四坪
 地券金九拾九圓
 第四千六百二十五号

右地券土田ノ所持ノ處本年七月中病死ニ付養子長男土田信清
 譲受候ニ付テ茲諸親類者勿論聊故障無御座候也
 第五太區四小區下谷徒
 京府士族並田
 親類証人
 永野野良
 和印
 第壹太區十四小區嶺先
 田信信、清節
 如此トル故土田家親戚トシ野村トテ於去毛被告并主田家ト養

子トナリシヲ初審ニ於テ証言セリ然ルニ原告ハ被告送籍ノ月日ニ少シノ差違アルヲ以テ之ヲ口實トナシ實際ヲ隠蔽セノト欲スルハ蓋シ被告カ第三號証ノ所以ニ依テ夫ノ送籍届ヲ遅緩シタルニ乘シ「イナ」一時戸主タルノ届ヲナシタルヲ奇貨トシ栗田守利等ノ致唆ニ因ルモノナリ且原告ハ該第三號証ニ栗田昌由ノ調印アルハ疎漏ニ出タルカ或ハ被告ト馴合ヒタルカノ趣種々論辨ヲ爲セ且是皆原告ガ附會ノ妄辨ナリ又原告ニ於テ被告カ入籍届ハ明治八年九月ナレハ「クニ」カ生存中ノ養子ニ非サルヲ以テ明治九年第五十八號布告ニ違背スルモノナリト論スレ且被告ハ「クニ」生存中ノ養子ナルトハ前ニ述シ如ニシテ且第三號ノ明証アリ而シテ該布告ハ子女アル婦女後夫ヲ迎ヘ前夫ノ跡相續ヲナカシム可カラサルヲ始メテ免サレタルナリ夫法律ハ前キノ法律ニ定メアル所ニ觸レタルニ非ルモ之ヲ

改メタル法律ニ觸レサルハ後ノ法律ニヨリテ處置ヲナスモノトス之ノ法律ノ既往ニ及ハサル所以ナリ故ニ原告ノ主張スル所ヨリ視ルモ該布告ニ毫モ抵觸セサルナリ況ンヤ被告ニ於テ「クニ」生存中ノ養子ナルトハ業ニ已ニ明キルニ於テオヤ、原告ノ内栗田昌由陳述ノ要領十月十四日被告第三號証書中ニ出シ押捺シタル印影ハ昌由ノ實印ニ相違ナト雖右ハ昌由カ不在中被告カ昌由ノ父守利ニ對シ昌由ハ調印ヲ乞ヒシ處守利ニ於テ無何心昌由ノ實印ヲ押捺シタルモノニシテ昌由カ承諾上押印セシ者ニ非ズ然ルニ初審廳ニ於テ昌由カ自ラ押印シタル旨申立シハ父ノ短テ舉ケンヨリ寧ロ己レノ粗漏ニ出タル所爲ト陳述スルニ如スト心得タルヨリ相違ヲ義ヲ申供セシ者ナリ原告ノ内永野良和カ代人永野道貫陳述ノ要領十月十四日

被告第四號証地券讓受書ニ其和カ調印シタルハ被告カ土田家名婿
 養子タルコトハ曾孫野村名義ヨリ傳聞ニ居ルニ付該地讓受書日ニ於
 テモ相違ナシト思量シ當時調印シタルハ其後原被告間未ダ結婚セ
 爲共ニ及由ナレハ果テ土田ノニカ生存中該地ヲ被告ニ讓與セザ
 否ハ今日保証書ニ難キハ其由ハ實情ニ據テモ明カニシルコトナ
 當區務所戶籍帳簿土田信清ノ名前上ニ於八年七月十日第三大區四小
 區ヨリ入籍トアリ又同紙ノ首ニ於八年七月十二日信清戶主ニ相成
 同十一月印形出來ニ付取置出記ニ其所ニ被告ノ實印ヲ押捺シアリ
 斯ク兩事ヲ登記セシハ果シテ其日限ヨアルヤ否ハ分明ナラカレ
 明治八年九月付送籍願書ニ土田家親族タル栗田昌由該地差配人
 ナリ連印アリテ見レハ兩項ノ義ハ該願書ヲ區務所ヨリ出シタルキ始

メテ帳簿ニ登記セシ者ト思量セリ而シテ送籍狀ハ左ノ如シ

第三大區四小區富士見町

町四丁目壹番地

父雜正 弟

北村勝善弟

北村勝信

清

當七月二十六年四月

右之者今般蝸壳町二丁目九番地土田ノニ養女イナニ方ニ駕養子ニ

差遣候間送籍候也

明治八年八月十日

被告カ原籍元第三大區四小區書記加藤次德具申ノ要領 明治十一年

日十五

明治八年七月中北村善弟土田信清ヲ蠟売町二丁目九番地へ送籍
セシ儀ハ左ノ戸籍寫并送籍狀寫ノ如ナリ而シテ其日付等取直シア
レ在當時取扱ヒシ者分明ナラサルナリ

戸籍帳寫 節錄

明治八年八月二十日第一大區

〔原書ニ此八月廿日ノ朱字ヲ墨ニ
テ七月十二日ト改メアリ〕

十四小區蠟売町二丁目九番地土田又四郎養女稻方へ養子ニ遣

テ〔原書ニ此又四郎ナ
クニト改メアリ〕

父庄五郎亡五男

北村 信 清

送籍狀寫

送籍狀寫ノ如キハ左ノ如シ
明治八年八月二十日
北村善弟土田信清
蠟売町二丁目九番地
土田又四郎養女稻方
へ養子ニ遣テ

此寫ノ全文ハ中野程之助ヨリ出セシ送籍狀寫ト同文ニテ唯戸
長トアル頭書ニ明治八年八月二十日ト墨書セシ二十日ヲ朱ニ
テ十三日ト改メアルマテ付畧ス
判文ノ要領

第壹條

原告ノ内栗田昌山ニ於テ被告第三號証書ニ押印シタルハ昌山ノ不
在中位父守利ハ被告ノ乞ヒニ應ジ調印シタル者ニシテ昌山カ承諾
セシ者ニ非ル旨申立ルト雖モ初審廳ニ於テ審問ノ節昌山ハ自身調
印ナシタリト云ヒ殊ニ其印影ノ昌山カ實印ニ相違無之上ハ今更承
諾セサル者ナリトノ申分ハ不相立因テ該書面上ニ掲載シタル趣意
ニ付テハ當時承諾シタル者ト認メタリ

第二條

原告ノ内永野良和ニ於テ被告第四号証ニ調印ヲナシタル土田クニカ生存中該地ニ被告ニ讓與セシヤ否ハ今日保証ナシ難キ旨申立ルト雖也如此調印セシ上ハ該書面上ニ揭券面ノ事柄ヲ付テハ當時承認ヲテ保証セシ者ト認知得ルを得ず實則ニ出資無シトシテ原告第三條旨申立ルニ當リ當時被告ニ對シテ被告ハ原告ニ對シテ原告於テ被告ニ土田公ニ大病ノ際野村ニテ托ニ御由一時差置タル者ト初審ノ供述ニ「タチ」カ媒妁シテ被告亡「イナ」ノ夫ニ迎ヘタル者ト「証言」スル而已ナラス被告カ原籍戸長ヨリ現今被告在籍戸長ヘテ送籍狀ヲ土田「カ」養女「ナ」ニ差遣ス云々ト明記アリ又在籍ノ戶籍帳簿主ニ「長女」イナ「天信清」記載有之又被告第六號結納目錄ヲ稱知者ハ原告ノ親族ニ「實父栗田守

利カ自筆ニ係レルヲ視シハ蓋シ其書面ニ明記ナキモ被告ト「イナ」ト結婚ニ付テ土田家ニ以被告以實家ニ送別タル者ノ如シ之レ等ノ形跡ヲ實際ニ徵驗之シテ推究スルニ被告「イナ」ノ夫ナリト認知セキノ憑據アル者ト夫「イナ」其後遺棄シテ原告ニ對シテ遺棄ノ事實ニ對シテ第四條旨申立ルニ當リ原告ハ原告ニ對シテ被告ニ於テ土田家ノ養子トナシテ明治八年七月十日ニシテ「遺棄」生存中ニ養子トナシテ書類及ビ戶籍登記ノ手續ヲ舉ル且明治九年第五拾八号ノ公布ニ抵觸セザル旨辨駁スルニ雖也被告カ原籍入戶籍帳簿ヲ閱シ被告カ姓名ノ上ニ明治八年八月廿日第壹大區土田小區蠟壳町三丁目九番地土田「カ」養女「ナ」遺棄ノ遺棄書シタル上テ八月廿八ノ字號七號廿日庚午二月十日何レモ墨筆ヲ以テ書入レ存之ニ付之云ハ該區務所所長實ニ當時此ノ如ク取直シ

スル次第分明ナラサル旨申立ル上ハ果シテ明治八年七月十二日ナ
 リシト判スルハ理由大キキヲ以テ猶更事實明治八年七月十日ノ入籍ト
 ハ難見認雖然被告也其居テ土田家ニ移セシ日ノ明治八年七月十日
 此ルハ雙方申供符合ナルト被告第三號証人モヨリ被告カ久前生
 存中其養子ト云ハシ者トハ見做得テモ未ズ土田家ノ相續人ト
 ナリシ証人モ見ルベキ者スレバ然ラバ被告第四號証人至ルモ永
 永野良和ノ印影ヲモ見ルベキカ生前ニ於テ該地券ヲ讓ルル証跡ナ
 シ該証券ハ其死後ノ調製ニ係ルヲ以テ他ノ親族ヨリ舉テ之レヲ認
 諾セシ明証ナルニ非レバ其効驗ナキ者トス而シテ明治九年第五十
 八號ノ主意ニ於テ眞實被告解釋ノ如ク且被告ハ「イ」ノ夫カモ
 抑土田家ニ於テ前戸主ノ嫡子ナル土田清治アリテ其相續者トシ
 ベキ正當ノ者有之上ニ之レヲ關キ猥ニ相續人ト定メ得テ去得サ

ル者ナリ況ンヤ被告ヲ其相續人ト認メント欲スルモ親族一同ノ協
 議ヲ盡シタルノ証ナク又該公布以前ニ在リテハ勿論爲スヲ得可カ
 云サル義其以後ニ於テモ之ヲ違奉ル特ニ其筋案許可ヲ受クルニ
 非サシ能ハサルニ於テオヤ故ニ「三」時相續人トシテ其如キ事跡
 アズモ其當失シ及法ニ觸ル者ナレバ被告カ以テ眞正ニ相續人
 トシテ土田家ノ戸主トシテ其如キ事跡アリシト認メ難ク「五」
 「六」第五條ノ規定ニ依リテ被告ハ「イ」ノ夫カモ「三」
 前條々ノ理由ニ依リテ被告ハ土田家ノ相續人トシテ地位ヲ占ムル
 者ニ非サシ「三」付正當ニ相續人トシテ土田清治ヲ改定シテ其
 「三」然ルモ雖モ被告ハ「イ」ノ夫カモ「三」ノ夫カモ「三」
 ノ原告申分ハ難採用事 明治十一年十一月二十一日
 大審院ニ於テ其旨判示スル事

原告土田信清上告ノ要領

東京上等裁判所其判文第四條ノ初ニ於テ上告人原籍帳簿ニ
 記シテ其日附ヲ論シ上告人土田家ニ入籍シテ事實ニ明治八年七
 月十日ノ難認旨判決セラレタル上告人其現居ル土田家ヨリ移セ
 シハ被告〔控訴〕原告〔原告〕モ明言シ居ルノミナラス上告人ノ原籍ヨリ出セシ送
 籍書モ其既ニ明治八年七月十日ノ正誤シテ且土田家ニ入籍帳簿ニ
 モ亦八年七月十日ノ登記アリ上告人其土田家ニ入籍シテ事實
 實ハ明治八年七月十日ナルヲ業ニ已ニ明カニ上等裁判所ハ唯正
 誤セサル原籍帳簿ノミヲ聞ク存送籍狀ハ土田家ノ戸籍表トニヨ
 ラス斯ク裁判アルシハ不法公裁判前思考スルハ其結果ハ其戸籍
 簿ニ於テ第三條ニ於テ其法律人ノ職責ニ於テハ其戸籍簿ニ於テ

前條ノ如ク上告人カ土田家ニ入籍セシハ明治八年七月十日ニシテ
 則チ土田家ニ在存中ノ養子トシテ明カニシテナラス東京上等裁判
 所於テモ上告人其既ニ土田家ニ在存中ノ養子トシテ看做スルキ
 下判決シク然ラズ則チ上告人其土田家ノ養子トシテ日直ニ相
 續人トシテ權利有テ然ラズ自然ノ道理ナルニ上等裁判所其判決
 次ニ於テ未タ土田家ニ相續人トシテ其証據ニモ見出キモ非ハ
 或チ相續人ト認テ其欲テ其親族ニ同ノ協議ニ盡シタル証ナシト
 判決スルハ其不法何トカシテ明治八年第三百六拾三號公布
 婦女子相續ノ後ニ於テ夫ヲ迎テ又其養子致シ候ハ其直ニ其夫又
 ハ養子ニ相續可相讓事トアル成文ニ依ルモ自ラ相續權ヲ有セシハ
 明ニシテ別ニ相續人トナリシ証ヲ求ムルニ及ハサルモノナレハナ
 リ況シヤ土田家尊屬ノ親野村〔野村〕初審ニ於テ其証書ト第三號

リ第六號ニ至テ書類ノ如ク土田家姻族親ハ皆認許モ証左アリ
 於テオヤ爾ニ據テ人トシテ之ヲ繼承スルハ其ノ法ニ依リテ之ヲ
 第三條ニ據テ之ヲ繼承スルハ其ノ法ニ依リテ之ヲ繼承スルハ其ノ法ニ依リテ之ヲ
 文前條ノ如ク上告人ハ土田家相續權ヲ有スル上ハ第四號證地所讓
 受ノ儀モ死亡者ノ跡相續ニ由テ讓受スルモ以テ亦自然ニ上告人
 ノ所有スルキニ認明治八年第五百三號ノ公布ヲ以テ知ルニキキニ上
 等裁判所ニ之ヲ生存中ニ贈還又ハ他人ニ對スル遺囑ノ贈還ト同視
 セシヤ右四等證地永野良和然印影ヲルモ以テ生前於該地券
 ヲ讓タルヲ證テ該地券ニ其死後ニ調製ニ係ルヲ以テ他日親族
 可舉等之ヲ認諾セシ明證ナルニ非シハ其効驗ヲ著者ニ認テ判決
 可シト法律ニ違反ナル不法ヲ裁判ト思考スルハ東京高等法院
 第四條人ハ土田家ノ人爾ニ據テ之ヲ繼承スルハ其ノ法ニ依リテ之ヲ

又同判文ニ於テ上告人カ土田家ノ相續人トナルコトハ明治九年第五
 十八號公布以前ニ在リテ勿論爲テ得ヘカラザル義其以後ニ於
 テ之ヲ繼承スルニ特ニ其節ヲ許可テ受テ之ヲ非サレハ能ク其旨判
 決アリテ以テ抑明治九年第五十八號達ハ其明文ノ如ク實子アルモ
 人養子以テ相續人トスルコト子女不認ニ寡婦夫ヲ迎ヘ前夫ノ跡相續
 人ト定ムル等不相成トシ田表示ヲテモ以テ上告人カ土田家ノ
 相續養子トナル如キモ其ノ關係セザルモ以テ何トナリ以テ上告
 人カ土田家ノ生存中ニ之ヲ養子トナリ認テ之ヲ繼承スル義其旨判
 決ノ跡ヲ繼承シ再相續ヲナシテ其ノ子女トシテ寡婦又ハ
 實子アルモ以テ稱スヘカラズ該達外ノ人ナレハ其ノ旨判決ヲ爲テ得
 ズ以テ上告人カ養子アルコトニ關係アルモ以テ其旨判決ヲ爲テ得
 ズカラスルノ養子未ズナル理由ヲ述ベシ彼ノ土田カ其ノ孫滿

治ナルモノハ當時未タ二年ニ滿タル幼兒ニシテ其家ハ民籍ナシ
 ハ力食以テ一家ノ活計ヲ立ツルモノナル故第三條ニ論スル如ク親
 族協議ノ上上告人トシテ養子トナシタルモノナリ然ラハ即チ官
 廳ニ於テモ之ヲ聽許セサルノ理アルヘカエサルナリ況ンヤ双方所
 管區務所ニ於テモ既ニ正當ノモノト認メ各戶籍簿登記タルニ於
 テオヤ然ルニ東京上等裁判所此等ノ手續キテ審究セテ前顯ノ判
 文ヲ下シ遂ニ上告人ハ土田家ノ戸主ナリトハ認メ難シト判決タ
 ルニ審理ヲ盡シテ不法ノ裁判ト思考スルニ及ビ茲ニ前大ノ裁判
 案ニ土田信清審判員付テ陳述 明治十七年 四月十二日 文ノ故ニ養子トナシ
 二明治八年七月十日自分カ土田家婿養子トナリ即日實家北村騰善
 自同役所ヨリ送籍狀ヲ原籍區役所ニ出願シ置キタル處明治八年七月十二
 日同役所ヨリ送籍狀ヲ渡サシメタル故土田家ニ入籍ノ取計未タナリ

トセシニ養母シニ死亡後妻イナニ既ニ一時戸主トナリシ旨差配人迄
 通報シアル趣ニ付彼是談判中時日遷延シ遂ニ其議不整ニ付右七月
 十二日之送籍狀ハ一ト先原籍區役所ニ返納セリ尤其返納ノ月日ハ
 記憶セザレド明治八年七月下旬カ同八月月上旬ノ頃ト覺ユ然ルニイ
 ナ戸主トナリシハ一時ノ事ニテ更ニ自分ヲ戸主トナスヘキノ談判
 略ホ行届シニ付明治八年八月二十日再ヒ原籍區役所ニ出テ送籍狀
 ナ受取シニ其狀ハ明治八年八月二十日附テ相渡サレタル故事實
 主田家ノ養子トナリシハ明治八年七月十日付ナル同日ノ日付ニ改
 メ吳ノ度旨申入シ處該區役所ニ於テ承諾ノ上八月二十日トアル所
 へ貼紙ヲナシ七月十日ト改メ相渡サレタルモノナリ尤右ハ實兄北
 村騰善ヨリ承知セシコニテ自分ニ於テ親ヲ右手續キナシタルモ
 ノニアラス

上告ノ主点ハ左ノ三項ナリトス

第一、東京上等裁判所ハ上告人カ土田家入籍ノ日ヲ判スルニ土田家ノ戸籍及ヒ上告人ノ送籍狀ニアル日附ニヨラスシテ唯正誤セサル原籍ノ帳簿ノミニヨリテ不法トノ事

第二、上告人ハ明治六年第三百六拾三号公布第二項ニ依リ土田ノ養子タル日直ニ相續權ヲ有セシモノニテ別ニ相續人トナリシ証ヲ求ムル旨及ヒ又明治九年第五十八號達ニ關セサル養子ナル事東京上等裁判所ニ相續人タル証一モ見ルニキナシト判シ且右第五十八號達ヲ附引シ以テ相續人ニアラサル旨ヲ判決アリシハ不法トノ事

第三、上告人ハ既ニ土田家ノ相續權ヲ有スル者ニ付明治八年第五百十三號公布第三條ニ依リ土田家地所讓受ノ權モ亦有之モノナル

ナ其讓受ノ効驗ナキ旨判決アリシハ不法トノ事

辨明

第一條

上告人ハ土田家ニ入籍セシ事實ハ明治八年七月十日ナリトテ東京上等裁判所カ七月十日ノ入籍トシ難認ト判決セシテ不法トスレド嚮ニ同裁判所ニ提供シタル第三號証ニ依ルニ上告人カ其名義ヲ土田家戸籍ニ登記セシムルノ手續ヲ遂ケタルハ明治八年九月ナリトス又本院ニ於テ上告人カ原籍役場ヨリ送籍狀ヲ受取ルタル手續キテ審問ナルニ之ヲ受取シテ前後兩回ニシテ其初メハ明治八年七月十二日ナレド一度之ヲ還納シ明治八年八月二十日ニ至リ更ニ明治八年七月十日ト改正セシ送籍狀ヲ受取タル旨陳述セリ然ラハ則チ上告人ノ指稱タル所ノ土田家戸籍表ニ八年七月十日入籍ト記シア

ルモ送籍狀ニ明治八年七月十日ト改メアルモ皆該時日以後ノ追記ニシテ現時ノ日附ヲ記シタルモノニアラス而シテ之カ根據タル原籍即チ其送籍狀ヲ出シタル役場ノ戸籍ニ於テハ明治八年八月二十日土田「イナ」方へ養子ニ遣スト書シ送籍狀寫ニモ亦明治八年八月二十日ト記シ其八月廿日ヲ兩書トモ七月十二日ト改竄シアルヲ以テ東京上等裁判所ハ之ヲ該區務所ニ糾スニ其改竄ノ儀ハ分明ナラサル旨申立タルヨリ上告人カ土田家へ入籍セシハ明治八年七月十日ナルヤ十二日ナルヤ當時ノ實証因ルヘキモノアラサルヲ以テ事實明治八年七月十日ノ入籍トハ難認ト判決セシモノミテ不法ノ裁判ニハアラサルナリ

第二條

又上告人ハ明治六年第三百六拾三號公布第二項ニ依リ土田クニ

養子タルノ日直ニ相續權ヲ有セシモノニテ別ニ相續人トナリシ証ヲ求ムルニ及ハス又明治九年第五十八號達ニ關セサル養子ナルヲ東京上等裁判所ハ相續人タル証一モ見ルヘキナシト判シ且右第五十八號達ヲ附引シ以テ相續人ニアラサルトノ判決アリシハ不法ナル旨申立シト明治六年第三百六十三號公布ハ華士族家督相續法ニシテ其第三項ナルモノハ相續人ナキ婦女ニテ養子又ハ夫ヲ迎ヘシモノハ直ニ其夫又ハ養子ニ相續可相讓トノコニテ正統ノ相續者アル婦女ニ於テ養子又ハ夫ヲ迎ユルモノヲ指シタル成法ニアラズトス而シテ土田家ニハ上告人カ養母ト稱スルクニノ嫡孫清治ナルモノアリテ則チ正統相續人ノ存スル上ハ當時之ヲ攔キ故ナシ他人ヲシテ相續人トナスハ固ヨリ法律上ノ許サ、ル所ナリ然ルニ明治九年第五十八號達ヲ以テ稍其法ヲ寬ニシ實子アル者養子ヲ以テ相續

人トシ子女アルノ寡婦夫ヲ迎ヘテ前夫ノ跡相續人ト定ムル等ハ一般難差評定規ニ候得共華士族ヲ除ノ外現實極貧或ハ老病等ニテ實子孫アリト雖モ幼少ナル歟又ハ有子ノ寡婦タリト極貧或ハ其子女幼少且後見スベキ者モ無之カノ場合ニテ親族協議ヲ以テ願出候節不得止事情ニ係ル者ハ地方官限リ聽許不苦」下達セラレタルモノナシハ正統ノ相續者即チ「クニ」實孫アル土田家ニ於テ更ニ上告人ヲ以テ相續者トナサントスル該達以前ハ勿論爲テ夫得ヘカラズ其後ト雖モ特ニ地方官ノ聽許ヲ得サレハ土田家相續ノ養子タルベカラサルモノナリ依テ東京上等裁判所カ其判文ノ末段ニ於テ「時相續人トナリ然カ如キ事跡アルモ其當夫失シ又法ニ觸ル者ナシハ被告カ止告人眞正ノ相續人ニテ土田家ノ戸主ナリトハ認メ難シ」裁判セシモノニテ不法ノ裁判ニハアラサルナリ

第三條

上告人カ土田家ニ對シ相續權ヲ有セサルハ前條ニ辨明セシ如クナレハ其地所讓受ノ「」就「」明治八年第五百五十三號第二條ニアル死亡者跡相續人カ地券ヲ受クル成規ヲ引証スベカラサルモノナリ而シテ東京上等裁判所カ第四號証地所讓受以効驗ヲ「」テ判決セシ要旨ハ上告人カ土田家相續人タラサル上ニ別段讓受ノ明証アルニ非サレハ其地ヲ讓受ルノ効驗ヲ「」意ナレハ之ヲ不法ノ裁判トナスヲ得ス

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所「」破毀スヘキ理由ナ

第八拾壹號「」

○貸金催促一件東京上等裁判所ノ裁判不當上告ノ判文
明治十二年五月八日申渡

原告 新潟縣下越後國蒲原郡

吉田町平民小林權藏

同縣同國同郡新潟寄居

東中通寄留

右代人 歸山

前通壹番町平民

濱田幸吉

東京上等裁判所ニ審判

原告 濱田幸吉代人吉野芳次郎控訴ノ要領
明治十一年八月十五日

原告濱田幸吉備明治八年十一月中被告小林權藏ヨリ地所家屋抵當
金四百圓借受テ明治九年三月三十日ハ返濟期限ナルヲ以テ加
藤與三平ナル者へ右地所家屋賣渡ノ約束ヲ以テ同人ヨリ金四百圓
借用シ與三郎同伴ニテ被告方へ行キ右金圓相渡シ本紙借用証書即
今見當ラサルニ付還テ見當ル迄受取証書差出置ヘキ旨申聞ルニ依
リ其意ニ任セ乃チ被告ノ自筆ナル左ノ甲第一號証ヲ受取タリ
記
第三金四百圓也 第八十三號役印証之金
但明治八年十一月取替分
外ニ金貳拾五圓五个月利足
元利ハ四百貳拾五圓也
右之通正ニ請取申候然ル上ハ本書相返可申等ニ候得共只今見當
不申取調ノ上相返可申候也

明治九年三月三十日

濱田幸吉殿

小林權藏

爾來本紙証文返戻ノ儀屢催促ニ及フト雖モ返戻致サス然ルニ明治十年十二月ニ至リ被告ハ突然原告ニ對シ本証書ノ金額返濟可致旨新潟裁判所へ訴訟ニ及ヒタリ然レモ該金額ハ前隙ノ如ク既ニ返濟シタル義ナルニ由リ甲第一號受取証ヲ以テ之ヲ証明セシ處被告ニ於テ該証書ノ印影ハ真正ナラサル旨申立遂ニ初審裁判所於テ甲第一號証書ノ印影ハ被告ノ實印ト相違セルカ故原告ノ申分採用セサル旨判決セラレタレモ承服スル能ハス抑甲第二號証書ハ被告本人ノ筆迹ニシテ其印影モ被告ノ實印ニ相違アラサレハ本衙ニ於テ甲第二號委任狀及ヒ乙第三號被告ヨリ差出タル筆迹印鑑勘合ノ証ト引合セ其真偽鑑定ノ上本案ノ裁判ヲ與ヘラレシコトヲ請フ

被告 小林權藏 代理人南一介 答辨ノ要領

明治八年十一月廿九日附ノ貸金証書ニ對シ被告ニ於テハ未ダ曾テ原告ヨリ返金ヲ受タルコトナシ其証書左ノ如シ

借用申金子証文之事

十錢	同	同	同
印紙	同	同	同

金四百圓也 但利足リ義二月一分二厘五毛定

此抵當

住居ノ宅地壹个所但 表口六間九分 裏行九間

但居屋敷ニ生立居候樹木共不殘從前之在來之儘

住宅 壹棟 但 梁間 六間 行間 八間

但都テ造作付從前在來之儘

藏 壹棟 梁間 五間 行間 六間

但都テ造作付從前在來之儘

右者此度商法資本金ニ差支無據代償人濱田慶次郎ヲ以テ他才覺
貴殿へ御頼申入候處御才覺之上書面之金員御貸渡被下唯今不殘
正ニ請取借用申候所實正明白也然ル上者來ル明治九年三月廿日
限リ定メ之利子相加ヒ元利共限日無相違可致返濟候方一期月濟
方及遲滯候ハ、前書標記之抵當家屋敷并土藏共流之極メニ候間
貴殿方ニテ地券受可被成候將又出火類燒等有之節ハ不抱本人ニ
連印之者ヨリ元利共速ニ代償仕貴殿へ壹錢御損御迷惑相掛ケ申
間敷候其節ニ到リ毛頭御願筋曾テ無御座候爲保証代償人連印金
子借用証文依テ如件

第三大區小六區吉田村
金子借用主

明治八年十一月廿九日

濱田幸吉印

右代償人

濱田慶次郎印

小林權藏殿

印

明治八年
第八十三號

前書々入地家屋土藏共相違無之候也

第三大區小六區小區長

齋藤平三郎印

右石長代理

井文吉印

然ルニ原告カ提供スル甲第一號返証書ノ如キハ被告ヨリ原告へ相
渡シタル口決シテ無之且該証書ニ押捺セル印影モ被告ノ實印ニ相

違セリ依テ乙第二號証ハ被告本人ノ直筆ナレハ甲第一號証其筆迹ヲ引合セ又甲第二號甲第三號乙第三號証ノ印影ハ當裁判所ニ於テ其真偽鑑定ノ上本案ノ裁判アラシキヲ請フ

判文

原告ヨリ提供セシ甲第一號証及ヒ被告ヨリ提供セシ乙第二號証ノ印影ヲ檢視シ及ヒ職工ノ者ヲシテ之ヲ鑑定セシムルニ甲第一號証被告名下ノ印影ト乙第二號証被告名下ノ印影ハ同一ノ印影ナリトス然ル上ハ甲第一號証ノ筆迹ハ假令被告ノ真筆ニアラサルモ該証ヲ以テ真正ナラサルモノト認メ難シトス然ルモ原告ハ乙第一號証ニ對シ其濟方ヲ做シタルニ依リ甲第一號証ヲ得シモノト認ムルニ付原告ハ本訴被告ノ請求ニ對シ其濟方ヲ做スニ及ハサル儀ト可相心得候事 明治十一年十二月九日

大審院ニ於テ

原告 小林權藏代大歸山宣土告ノ領要 明治十二年二月七日

本訴ノ曲直ヲ分ツハ控訴甲第一號証ノ真偽如何ヲ審査スルノ外ナラス然リ而シテ之ヲ審理ヲ爲ス豈獨リ印影而已ノ鑑定ニ止ラシヤ必ス首トシテ該証ヲ手記セシモノハ誰ナルヤヲ鑑定セヌンハ容易ニ其真偽ヲ確定シ難キハ論ヲ俟サルナリ是故ニ被告濱田幸吉カ控訴ノ趣旨タル本証ノ真偽ヲ識別スルハ豈獨リ其印影而已ナラシヤ該證書ヲ記セシ者ハ誰ナルヤ否ヤ被告ノ自筆ニアラサルヤ否ヤ云々裁判所ニ於テ仔細ニ吟味セラレタル上ニ非サレハ容易ニ證書ノ真偽ヲ決ス可ラサルナリト云ニアリ又被告代人カ明治十一年十一月廿一日口供ニ被告本人ノ直筆ニ相違無之云々甲第一號証ノ筆跡ハ乙第二號証ノ筆迹ト同一ニテ共ニ被告本人ノ直筆ト見受申候上

又小林權藏代言人カ口供ニ甲第一號證ハ被告ノ直筆ニハ無之候
 處乙第二號證ハ被告本人ノ直筆ニ有之候間御引合セ被成度トアリ
 然ルニ東京上等裁判所ニ於テ之カ檢視ヲ遂ケラレスシテ單ニ印影
 而已ノ鑑定ヲ以判決ヲ與ヘラレタルハ不當ノ裁判ナリト思考ス被
 告濱田幸吉カ所持スル控訴甲第一號證書ノ印影ト原告カ所持用セ
 ル實印トハ同一ノモノニ非サルハ一目瞭然タリ是故ニ新潟初告裁
 判所ニ於テハ親シク檢視ノ上尙精工ナル鑑定人ヲ聘シテ勘査セシ
 メ以テ受取書ハ直正ノモノト信認セストノ判決ヲ與ヘラレタルニ
 東京上等裁判所ニ於テ拙劣ナル職工人ヲ召喚セラレ彼等カ不正ノ
 申立ト被告濱田幸吉代人カ無根ノ辭柄ヲ偏信シ控訴乙第一號證ノ
 如キ公認ヲ得タル確證ヲ無効ニ歸セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ナ
 リト思考ス

控訴甲第二號證ハ嘗テ原告小林權藏ヨリ濱田幸吉ヘ付與シタルニ
 ハ無之其筆迹タルヤ權藏カ自筆ニ非ス印影モ又差異アリ
 右ノ次第ニ付東京上等裁判所ノ裁判破毀アラシクテ乞フ
 辨明
 上告ノ旨趣ヲ要スレハ東京上等裁判所カ甲第一號證ハ小林權藏自
 筆ノ眞偽如何ヲ調査シ而シテ印影ノ鑑定ニ及ラヘキ筈ナルニ拙劣
 ノ職工カ不正ノ鑑定ヲ信用シタルハ不法ナリト云ニアリ然ルニ請
 取證書ノ如キハ本人カ手記スヘキモノト定メタル規則無キニ該證
 ニ限リ本人カ手記ヲ要スル理由モ無ケレハ必シモ筆跡ノ眞偽ヲ調
 査スルニ及ハサルモノナリ又印影ノ鑑定ニ於テハ明治十一年十一
 月廿一日東京上等裁判所ニテ小林權藏代人南二介カ口供ニ甲第一
 號甲第三號乙第三號證ノ印影ハ當裁判所ニ於テ御鑑定有之度因テ

來ル廿五日午前第九時職工ノ者御召喚鑑定可被申付付同刻證據物携帶出頭可仕候ト有ルニ依リ其廿五日印影鑑定ノ始末ヲ控訴書類ニ徴スレハ長田房八濱名秀吉大橋嘉助カ鑑定ノ證書ニ甲第一號甲第二號乙第二號ノ三個ノ印影文字篆書ニテ權刻有之印判ニ相違無之ト有リ又明治十一年十一月廿五日原告代人吉野芳次郎被告代人南一介カ東京上等裁判所ノ口供ニ甲第一號甲第二號乙第二號證引合セノ爲メ本日原被告立會ノ上印判師ヲ以テ鑒定相受申候ト有ルヲ以テ視レハ原被カ提供スル證據物ヲ參照シ鑑定ヲ做サシメタルモノナレハ此鑑定ニ於テ不都合無キモノニ對シ不正ノ鑑定ヲ做シタリト云レ共不正ナル證據ヲ掲ケサレハ到底無證ノ申立ニシテ採用スルヲ得サルモノナリ斯ノ如キ條理ナレハ東京上等裁判所ノ裁判ハ不法ノ裁判ニ非トス

判決

前條ノ理由ヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ筋無キモノトス

第八拾貳號

○賣掛殘金淹滯上告ノ判文明

明治十一年四月廿九日上告
明治十二年五月十日申渡

東京府下京橋區本八丁
堀五丁目拾壹番地平民
網渡世牧野德兵衛代人
東京府下日本橋區堀江
町三丁目六番地平民

原告 早川清兵衛
東京府下日本橋區通油

町廿三番地平民銅渡世

佐伯勇助代人

東京府下淺草區茶屋町

二番地寄留千葉縣平民

被告

時友一郎

東京裁判所ノ判文

被告佐伯勇助於テ引合人守屋吉兵衛所持ス丙號証書ニ依リ

丙號

記號

一古船壹艘三ツ道具附 代金四百四拾圓也取極メ

丙號内金百五拾圓手附

右直段ニ取極メ約定仕手金正ニ受取候處實正也殘金儀者當五月

五日限リ本証書引替御渡可被下候右約定取極メ候上決テ外方へ
賣渡者不仕候儀者勿論ニ付右日限ニ殘金御渡シ無之上約定日限
之後日ハ此受取証書ハ可爲廢物候爲後日仍テ如件

本八町堀五丁目拾壹番

地

明治九子午年四月十七日

森谷吉兵衛殿

牧野 德兵衛印

本訴金額ハ原告牧野德兵衛ヨリ守屋吉兵衛引合人へ賣渡セシ船代
價ノ殘金ニシテ返辨ス可キ義務無之旨申立ルト雖モ該証書丙號ノ
文言ニ約定日限ノ後ハ此請取証書ハ可爲廢物云々トアリト雖モ其
實ハ現ニ右船引渡ヲ受居ルニ付其効既ニ消滅セシモノナリ然レハ
甲號証書ノ成立ナシ際

甲號

證

一古廻船... 壹艘... 但シ三ツ道具附... 代金四百四拾圓也... 内金百五拾圓也爲手附相渡シ申候也

右殘金之儀者來月五日迄ニ無相違相渡申候也

九年四月十七日

佐伯勇助印

牧野德兵衛殿

他之事情... 原告佐伯勇助控訴ノ要旨... 明治十年六月廿五日... 被告牧野德兵衛ヨリ古廻船ヲ買取タルコト曾テ無之故ニ其代金ヲ可相拂約ナセシコトモ無之ナレモ被告牧野德兵衛カ提供スル甲號證書ノ負債者ハ原告佐伯勇助ノ名前ニシテ押捺セル印影モ原告佐伯勇助ノ店判ニ相違ナキ次第ハ明治九年四月十四五日ノ頃引合證人守屋吉兵衛ナル者他ヨリ古廻船ヲ買取ル可キ約束アル趣ヲ以テ金百七拾五圓借用致シ度旨依頼有之ニ付承諾シ置タル處明治九年四月十七日ニ至リ吉兵衛引合人儀被告牧野德兵衛ヲ同伴シテ罷越曩キニ頼談セシ金額ノ内百五拾圓借受度旨中之ニ任セ即チ右金員ヲ原告佐伯勇助ノ店先キニ於テ吉兵衛引合人ニ渡シタル處吉兵衛引

貳百九拾圓ノ金額ハ被告佐伯勇助ヨリ返還ス可シ 明治十年三月二十九日

東京上等裁判所ノ審判

明治十年六月廿五日

原告 佐伯勇助控訴ノ要旨... 被告牧野德兵衛ヨリ古廻船ヲ買取タルコト曾テ無之故ニ其代金ヲ可相拂約ナセシコトモ無之ナレモ被告牧野德兵衛カ提供スル甲號證書ノ負債者ハ原告佐伯勇助ノ名前ニシテ押捺セル印影モ原告佐伯勇助ノ店判ニ相違ナキ次第ハ明治九年四月十四五日ノ頃引合證人守屋吉兵衛ナル者他ヨリ古廻船ヲ買取ル可キ約束アル趣ヲ以テ金百七拾五圓借用致シ度旨依頼有之ニ付承諾シ置タル處明治九年四月十七日ニ至リ吉兵衛引合人儀被告牧野德兵衛ヲ同伴シテ罷越曩キニ頼談セシ金額ノ内百五拾圓借受度旨中之ニ任セ即チ右金員ヲ原告佐伯勇助ノ店先キニ於テ吉兵衛引合人ニ渡シタル處吉兵衛引

合人ハ有金ヲ受取ルヤ直ニ被告牧野德兵衛ニ對シ古廻船買取殘金
 取引ノ應接致シ居ルニ付原告佐伯勇助ハ與座敷ニ罷越タリ然ル處
 當日右吉兵衛引合人實印ヲ携帶セサル趣ニテ當時原告佐伯勇助ノ雇
 人ニテ現今養子トナシタル幸吉事定吉ヘ假リニ甲号證書ヲ認メサ
 セ原告佐伯勇助ノ店判ヲ押捺サセテ被告牧野德兵衛ヘ渡シタル由
 吉兵衛引合人等歸去リ後承リ如何ニモ不都合次第ニ付不取敢右書
 付甲號返却方ナ吉兵衛引合人ヘ及掛合爾來屢督促スルモ該證書甲號
 ニ付迷惑ヲ掛ケサル旨中之等閑置タル内被告牧野德兵衛ヨリ東京
 上等裁判所ヘ出訴ニ及ヒタリ同裁判所ニ於テハ被告牧野德兵衛請
 求ノ通裁判ナリタリ然レモ前陳ノ如ク該船ノ買主ハ全ク原告佐伯
 勇助ニ非ス吉兵衛引合人ナルニ相違ナキコトハ既ニ被告牧野德兵衛
 ヨリ明治九年四月十七日付ヲ以テ吉兵衛引合人ニ渡シ置タル古船

賣渡證書而已ニテモ證スルニ足ルヘシ加之被告牧野德兵衛ヨリ原
 告佐伯勇助ヘ差送リタル明治九年五月廿九日郵便證書ハ原告
 通油町貳拾三番地主 本八丁堀五丁目拾一番地
 大門通大丸新道向角 眞入一印銅屋勇助様
 五月廿九日午後二時 御返事被下候處未タ兩人何
 即昨日御打合申上候處今日郵便ヲ以御申遣シ被下候處未タ兩人何
 等ノ返事モ無之候間乍御手数急キ御返事被下候様御店ヨリ御申
 傳被下度尤當方ニ於テ兼々申上候通御尊店御受合ノ義ニモ候間
 安心ヲ致居候得共當方手都合モ有之ニ付御氣ノ毒様ナカラ至急
 御返事奉待入候也
 文中ニ原告佐伯勇助ヲ指シ其店ニテ受合ノ事故云々或ハ先方ヘ申
 傳吳レト云文アリ先方トハ即チ船ノ買主吉兵衛ヲ指シタル者ナリ

果シテ被告牧野德兵衛カ申立ク如ク明治九年四月十七日ニ原告佐伯勇助方ニテ該船ヲ買取タルモナラハ被告牧野德兵衛ヨリ原告佐伯勇助ニ直接ニ代金ノ拂方ヲ促スヘキ筈ナルニ左ハナクシテ前陳ノ如ク其店受合云々ト言ヒシヲ以テ原告佐伯勇助ニ船ヲ買主ト非サルヲ瞭然タリ因テ被告牧野德兵衛ノ請求ニ難應ス

被告牧野德兵衛代人有川貞義答辨ノ要旨ヨリ被告中明治九年四月十七日引合證人守屋吉兵衛等ル者被告牧野德兵衛所有ノ古廻船壹艘買受度旨中ニ付代金四百四拾圓ト取極タリシニ眞ノ買主ト通油町銅屋即チ原告佐伯勇助ナル者ニ付同大ノ宅ニ於テ金圓取引可致旨吉兵衛引合人ト申シ隨日原告佐伯勇助方ヘ吉兵衛引合人ト同行シ原告佐伯勇助ニ面會シ主手附金百五拾圓受取殘金貳百九拾圓ハ明治九年五月五日迄原告佐伯勇助ヨリ可受取約

ヲ以テ則甲號證書ヲ領收シ丙號證書則該船賣渡書ヲ吉兵衛引合人ヘ渡シタリ尤該賣渡證書ノ宛名ハ佐伯勇助代吉兵衛ト記シ渡シキ筈ナリシニ兼テ吉兵衛引合人ノ署名宛ニ相認持參セ故ニ其儘相渡シ且船ハ原告佐伯勇助ニテ吉兵衛引合人ヘ引渡誤ト計頼ニ因テ吉兵衛引合人ニ渡シ終然然原告佐伯勇助カ右殘金貳百九拾圓濟方致サシテ東京裁判所ニ於テ六月九日ニ訴旨取裁決ヲ

明治十年三月廿九日受タリ然處原告佐伯勇助ニ於テ右裁判決不當ト認メテ控訴ニ明治十年六月廿五日及右該船ノ買主ト原告佐伯勇助ニ非ラスシテ引合證人吉兵衛ナリト云ヒ曾テ原告佐伯勇助ヨリ被告牧野德兵衛ニ合證シアル甲號證書ハ吉兵衛引合人カ頼ニテ原告佐伯勇助ニ雇人定吉現今佐伯勇助ノ養子ナル者認メタルモノニテ原告佐伯勇助カ承諾セシモノニ非サル旨主張スレモ右ハ原告勇助カ自カ指

圖ヲナシ定吉ニ認メカセタルモノシテ既ニ其際定吉佐伯勇助
 養子カ郵紙ニ認ムヘクヤト云ヒタリシニ其時原告佐伯勇助ハ暫時
 シヨナレハ其儀ニ及ハス半紙ニテ可然ト云ヒシ程ナリ因テ定吉佐
 伯勇助ハ養子カ半紙ニ認メ原告佐伯勇助ノ店判ヲ押捺シ原告養父
 勇助ニ渡シ原告勇助ヨリ其証書甲號ヲ被告牧野德兵衛ヘ渡セシ
 付之レテ領收シタリ其後明治九年五月三十日原告佐伯勇助カ該船
 買入タルニ見込違有之ニ付殘金ノ内九拾圓勘辦受度旨申聞タルコ
 アリ之レ則原告佐伯勇助カ該船ノ買主タルニ一證タリ又明治九年
 五月廿九日ニ原告佐伯勇助ヘ遣セシ端書郵便ニ原告勇助ハ指シテ
 其店受合ソコ故安心云ムト認メ遣セタル譯ハ其前原告佐伯勇助
 ノ郵便ヲ以テ該船直段ヲ儀ニ付テ吉兵衛引合人等ヨリ聞取吳ル
 様云々ヲ申越セシコアリタルニ付被告牧野德兵衛ヨリ右郵便端書

ヲ以テ吉兵衛引合人等原告佐伯勇助ノ名代トシテ參ル様ニ付促シ
 タル儀ナリ尤原告佐伯勇助ヨリ差越セシ郵便端書ハ見失ヒ現今所
 持セサレモ右ニ開陳セシ如ク該船ハ全ク原告勇助ハ賣渡シタル様
 ツニシテ而シテ其代價ノ殘金ヲ原告勇助ヨリ可受取約定ヲサセ
 ハ甲號證書ノ如クナリテ以テ速ニ原告佐伯勇助ヨリ殘金返還致
 様裁判アラシク申請スル等情事ナリ
 引合證人 守屋吉兵衛陳述ノ要旨
 被告牧野德兵衛ヨリ古廻船壹艘代價金四百四拾圓ヲ買取前キ約
 ナリシ明治九年四月十七日原告佐伯勇助ノ宅ニ被告牧野德兵衛
 同行シ兼テ原告佐伯勇助ヘ借用ヲ委頼シタル金百五拾圓ヲ借受ク
 之シテ右船代金ノ手附トシテ被告牧野德兵衛ヘ相渡シ殘金ヲ契約
 書ヲ被告牧野德兵衛ヘ差入ル可キノ處折節實印持參セサルニ付原

告佐伯勇助ノ雇人定吉ニ依頼ニ及セ假ニ証書ヲ認メ實ニ其次第ヲ
 陳述シ即チ被告牧野德兵衛カ提供スル甲號証書ヲ被告牧野德兵衛
 引渡シ被告德兵衛ヨリ丙號証書ヲ領収シ猶懇談ノ上船ヲ引渡シテ
 受テ右甲號証書カ吉兵衛引合証人ヨリ被告牧野德兵衛方ニ差入
 ルハ証書ナルヲ以テ吉兵衛代佐伯勇助ト認メ可遣等ナリ其際必
 付カカリシハ不念ナリ然レ處原告佐伯勇助ト定吉カ右甲號証書ヲ認メ
 不都合ニ付返却受度旨原告佐伯勇助ヨリ督促ヲ受タルヲ以
 テ吉兵衛引合証人名前ノ証書ヲ交換シ吳ル様再三被告牧野德兵衛
 へ申入タルニ承諾セズテ初審廳東京裁判所ト出訴シ及ヒタル然
 レモ右ニ開陳セシ如ク該船ハ原告佐伯勇助カ買受ケテ其代金
 以テ吉兵衛引合証人ヨリ被告牧野德兵衛ヨリ買受ケテ其代金
 以テ吉兵衛引合証人ヨリ速ニ償還シ可キハ勿論ナリト雖モ種々ノ損

失等ハ原告及被告ノ義務ヲ果スル得ルハ其ノ旨ニ依リテ

引合証人守屋吉兵衛カ明治半年八月廿四日始末書ノ要項
 明治九年四月上旬頃第一大區十六小區靈岸島新船松町八番地堀田
 龜吉ヨリ申者カ被告德兵衛ト至テ懇談シ者ニテ同人自分守屋吉兵
 衛ニ申聞候ニ右德兵衛方ニ賣船壹艘有之右物品買受候得者格別
 益徳ニ定可相成旨ニ付直ニ被告德兵衛方ニ罷越談事及ヒシ處代價
 金四百四拾圓ニテ賣却致度勿論他ニ望人モ有之旨付至急金圓差入
 ル方ニ相談取極メ申度越儀ニ惣代價四百四拾圓ニ處當金百五拾圓
 相渡シ殘金貳百九拾圓ハ船取崩濟迄ニ相渡スルハ取極右德兵衛
 承諾上同月(明治九年四月)十五日詰り買取可申儀約定ナシ有合金貳拾圓相
 渡シ置直ニ船引渡シ受右十五日夜(明治九年四月)船番人久藏ト申者カ相雇
 已附置其夜原告佐伯勇助方ニ罷越右船自分買取テ以テ格別益徳

モ可相成見込ニ付右取崩之上ニ鉄物類悉皆差向可申旨金主相
 頼候處同人佐伯勇助不承諾ノ趣ニ候處達ニ依頼ニ及ビシヨリ承諾
 致吳レ就テハ金圓渡シ方同月十七日〔明治九年四月十七日〕ナラズテハ不都合ニ趣
 原告勇助申聞キ付則德兵衛ニ有テ越報知ニ及ビ同月十六日〔明治
 四年四月十日〕早朝ヨリ帆柱其他取崩勿論買主ハ守屋吉兵衛引合證人金主
 ハ佐伯勇助ト云フハ牧野德兵衛モ承諾ナリ又明治九年四月十七日
 金圓受渡シ儀ハ金主佐伯勇助方ニ自分守屋吉兵衛德兵衛ヲ同道シ
 タル處勇助病氣ニテ打臥罷在達テ相頼シ同人佐伯勇助ヨリ金圓受
 取德兵衛ヨリ百三拾圓直ニ相渡シ都合百五拾圓トナシ證書丙號請取
 引合證人守屋吉兵衛カ明治十年八月廿九日口書ニ書キ申上ル
 右古船鑑札ニ儀賣主德兵衛ハ明治九年四月十五日朝申談候處鑑札

税金ハ德兵衛方ニテ相濟居候間右等ニ懸念セス德兵衛持船ノ積リ
 ニシテ解船致シ候様申聞ケ鑑札ハ爲見不申ナレモ何等ノ差支アル
 ニ非スト其儘ニ致置候

第壹條

被告牧野德兵衛ニ於テ本訴ニ争フ處ノ古廻船賣渡證文即チ引合證
 人守屋吉兵衛カ提供スル丙號證書ヲ吉兵衛名宛ヲ以テ同人ニ渡シ
 タレモ全ク買主ハ吉兵衛ニ非ス原告佐伯勇助ナルニヨリ宛名ノ肩
 書ニ原告佐伯勇助ノ代タルコトヲ記スヘキ筈ナリシヲ記載セズンテ
 其儘渡シタリト云ヒ明治九年四月十七日付甲号證書即チ原告佐伯
 勇助名前ノ書付テ證トナシ該船賣渡代殘金原告佐伯勇助ヨリ受取
 度旨申立ルト雖モ引合證人吉兵衛ハ原告佐伯勇助ノ代人トナリテ

該船ヲ買受タル應證書上ニ不相見而シテ被告牧野德兵衛カ原告佐伯勇助ヨリ領收シタリト云フ明治九年四月十七日付甲号證書ニ古廻船壹艘但三ツ道具付代金四百四拾圓也内金百五拾圓手付トシテ相渡申候也右殘金シ儀ハ來月五日迄ニ無相違相渡申候也トアリ又被告牧野德兵衛ヨリ引合證人守屋吉兵衛ニ渡シタル明治九年四月十七日付丙号證書ニモ古廻船壹艘三ツ道具附代金四百四拾圓内金百五拾圓手付右直段取極メ約定仕手金正ニ受取候處實正也殘金ハ當五月五日限本証書引替御渡可被下候右約定取極メ候上決テ外方へ賣渡ス不仕候儀ハ勿論ニ付右日限ニ殘金御渡シ無之上約定日限ノ後日ハ此受取證ニ可爲廢物候云々トアリテ該二通ノ證書ハ同一ノ約ニテ其約束ノ主意及ビ年月日ニ毫モ違フヲナシ由之觀之被告牧野德兵衛ハ一ノ古廻船ヲ同時ニ引合證人守屋吉兵衛へ賣渡シ

又原告人佐伯勇助へ賣渡セシモノニ似タリ然レモ一ノ物件ヲ同時ニ兩人へ賣渡スヲ得可カラス因テ買主ハ何レ歟壹名ト爲サ、ル可カラス之レヲ推究スルニ果シテ原告佐伯勇助カ該船ノ買主ナラハ其賣渡證文ヲ原告佐伯勇助ニ可渡筈ナルニ引合證人守屋吉兵衛ニ渡シタル而已ナラス其實右船ノ引渡云々其後船代殘金相滞催促ニ及フノ際モ原告佐伯勇助カ眞ノ買主ニシテ其殘金ヲ相拂フノ義務ヲ負擔シアルモノカラハ原告佐伯勇助へ直チニ其淹滞ノ金額ヲ督促ス可キ筈ナルニ左ハ無クシテ明治九年五月廿九日付郵便端書ヲ以右船代殘金ノ儀ニ付云々申遣シアル文中ニ原告佐伯勇助ヲ指シテ御尊店御受合ノ儀ニモ候間安心云々其前文ニ御店ヨリ御中傳被下度云々ト他人ヲ指シタルノ文義アリ於是原告佐伯勇助ハ該船ノ買主ニ非ス其買主ハ引合證人守屋吉兵衛ナリト看做サ、ルヲ得

然レハ甲號證書ヲ以原告佐伯勇助ヲ其買主ナリトノ被告牧野德兵衛申分ハ難採用

第貳條

第壹條ニ判決スル理由ニシテ而シテ甲號證書ハ引合證人守屋吉兵衛ノ依頼ニヨリ原告人佐伯勇助ヨリ假ニ被告牧野德兵衛ニ差入レタルモノト看做サ、ルヲ得サレハ被告牧野德兵衛ニ於テ該船ノ具ノ買主タル引合證人守屋吉兵衛ヲ關キ該船代殘金ヲ原告佐伯勇助ニ對シ請求スルノ理由ナキモノト可心得事 明治十一年二月廿八日 大審院ニ於テ

上告人 牧野德兵衛代人早川清兵衛上告ノ要領

第一條

一東京上等裁判所ノ判文第一條中ニ引合證人吉兵衛ハ原告佐伯勇

助ノ代人トナリテ該船ヲ買受タル廢證書上ニ不相見云々トアレハ甲號證書ハ被上告人佐伯勇助船代殘金ヲ德兵衛ニ拂フヘキヲ契約シタル拂切符ナレハ守谷吉兵衛カ佐伯勇助ノ代タルヲ記載スヘキ謂レナン又丙號證書ハ其宛名ノ守谷吉兵衛ノ肩書ニ佐伯勇助股代人ノ七字ヲ記載スヘキヲ誤テ脱落セリ右ノ次第ナルニ依リ甲丙兩證共吉兵衛カ勇助ノ代人タル廢記載ナキハ各其理由アリ加之引合證人守谷吉兵衛カ出セル丙號證書ハ其文中ニ右日限ニ殘金御渡無之上約定日限ノ後日ハ此請取書ハ可爲廢物候云々トアリテ即チ約定日限明治九年五月五日以後ハ已ニ廢物ナリ然ルニ東京上等裁判所カ其廢物タル丙號證書ヲ採用サレ概シテ守谷吉兵衛ハ佐伯勇助ノ代人タル廢證書上ニ不相見ト裁判サレシハ是レ審理不盡ニシテ不法ノ裁判ナリト思考ス

第二條

一同條中ニ該二通ノ證書甲號丙號ハ同一ノ約ニシテ其約束ノ主意及ヒ年月日ニ毫モ違フコト無シ由之觀之被告牧野德兵衛ハ一ノ古廻船ヲ同時ニ引合證人守谷吉兵衛ハ賣渡シ又原告人佐伯勇助ハ賣渡セシモノニ似タリ然レモ一ノ物件ヲ同時ニ兩人ハ賣渡スコトヲ得可カラス因テ買主ハ何レ歟一名トナサハル可カラス云々トアルハ恰モ上告人牧野德兵衛カ一艘ノ古廻船ヲ同時ニ吉兵衛ト勇助トノ兩名ニ賣渡シタルモノ、如シ因テ該船ノ買主ハ何レカ一名ニ歸セサルヲ得サルトノ文意ナリト思考ス夫レ牧野德兵衛カ一艘ノ廻船ヲ以テ同時ニ兩人ニ賣渡シタルト見認ラレシナラハ牧野德兵衛ハ重典賣者ナリ重典賣ナルモノハ國律之レヲ禁ス國律ノ禁スル所ノ事ヲナス者ナレハ牧野德兵衛ノ重賣ハ犯罪ガ刑事ニ附セラルヘキニ

民事ノ裁判アリシハ聽斷ノ定規ニ乖タル不法ノ裁判ナリト思考ス

第三條

一同條中ニ其後船代殘金相滯催促ニ及フ際モ原告佐伯勇助カ眞ノ買主ニシテ其殘金ヲ相拂フノ義務ヲ負擔シアルモノナラハ原告佐伯勇助ヘ直チニ其滯滞シ金額ヲ督促ス可キ筈ナルニ左ハ無クシテ明治九年五月廿九日付郵便端書ヲ以テ右船代殘金ヲ儀ニ付云々申遣シタル文中ニ原告佐伯勇助ヲ指シテ御尊店御受合ノ儀ニモ候間安心云々其前文ニ御店ヨリ御申傳被下度云々ト他人ヲ指シタル文義アリ於是原告佐伯勇助ハ該船ノ買主ニ非ス其買主ハ引合證人守谷吉兵衛ナリト看做サハルヲ得ス然レハ甲號證書ヲ以テ原告佐伯勇助ヲ其買主ナリトノ被告牧野德兵衛申分ハ難採用トシテ凡郵便端書ハ小端紙ニシテ文意能ク得テ盡シ難ク上告人牧野德兵衛

リ被上告人佐伯勇助ニ遣シタル端書郵便モ亦其文意判然ナラサル
 朦朧タル文詞ナレモ其文中ニ御尊店御受合ノ儀ニモ候間安心云々
 等ノ如キハ豪家ヲ尊稱スル商家ノ通義ニテ又御店ヨリ御申傳被下
 度トハ其前佐伯勇助ヨリ該船代金直引ノ儀ニ付申越タルニ其後何
 等挨拶モ無之ヨリ即チ吉兵衛等ヲ指シタル儀ナレモ該郵便タル佐
 伯勇助ニ直接ニ宛タルコト瞭然ナリ然ルニ東京上等裁判所カ此端書
 郵便ヲ以テ強テ船ノ買主ハ引合證人守谷吉兵衛ナリト認定セラレ
 シハ是レ不法ノ裁判ナリト思考ス
 其端書郵便ノ全文及ヒ註解左ノ如シ
 昨廿八日御打合申上候處今日郵便ヲ以御遣シニ相成候得共此昨
 日御打合トハ德兵衛勇助大門通勇助宅ニテ會話シタル舟代直引
 云々ノコト五月廿八日ノコトニテ今日郵便ヲ以御遣相成候ヘトハ
 勇助ヨリ德兵衛ニ宛送ラレタル信書ヲ指シタルモニテ船代金
 ノコトニ付勇助德兵衛ノ間斯ノ如ク掛合往復アリ茲ニ於テ勇助カ

申述德兵衛ト關係ナキ間ナ
 リト通辭モ立ヘカラス
 未タ兩人何等ノ返事モ無之乍御手數急御返事被下候様御店ヨリ
 申傳被下度此兩人返事トハ勇助ノ使者タル吉兵衛龜吉兩人ヨリ
 ルト雖モ少カ拾圓カ甘圓ハ勘辨モスヘキ等ノコトヨリ殘金拂受シ
 敷乍ラ御返事被下候様御店ヨリ御申傳トハ勇助ヨリ吉兵衛龜吉
 兩人ニ下合シ以テ德兵衛向ケ腕ト御返事被下タルコトノ文意ナ
 リ斯ニ迂遠ナル文ヲ用タルコトハ勇助ハ可然豪商ナルカ
 故彼ヲ尊敬シ我ヲ卑下スル商家ノ慣習概テ此ノ如シ
 當方ニ於テモ兼々申上候通御尊店御受合ノ儀ニ付安心ハ致シ居
 候得共當分都合モ有之候間乍御氣ノ毒奉願候此五月五日ニ可請
 是澁滞然リト雖有名ナル勇助カ面談上ノ契約ヨリ義務ノ承認
 ルニモツテ聊渡金ノ期ハ後ルモ敢而心痛ハセサレ共手元都合
 ニユリ早ク渡シ吳ヨリ督促ヲ兼タル直
 引不承知等ノ掛合返辭ヲ促スノ文意ナリ
 第四條
 一同判文第貳條ハ第壹條ニ判決スル理由ニシテ甲號証書ハ引合證

人[守谷吉兵衛]ノ依頼ニヨリ原告人[佐伯勇助]ヨリ假リニ被告[牧野德兵衛]兵衛へ差入レタルモノト看做サ、ルヲ得サレハ被告[牧野德兵衛]ニ於テ該船ノ真ノ買主タル引合證人[守谷吉兵衛]ヲ閣キ該船代殘金ヲ原告[佐伯勇助]ニ對シ請求スルノ理由ナキモノト可心得事トアレハ是レ無稽ノ裁判ト謂ハサルヲ得ス何トナレハ上告人牧野德兵衛カ呈供セシ甲號証書ハ被上告人佐伯勇助カ船代殘金ヲ拂フヘキヲ契約セシ有期ノ拂切符ナリ據テ上告人牧野德兵衛ハ此証書[甲號]ヲ以テ得ヘキノ義務ヲ得トスルニアリ然ルニ東京上等裁判所カ漫ニ賣買ノ當初ニ溯リ買主ノ誰タルヲ論シ而シテ甲號証書ハ被上告人佐伯勇助カ引合證人守谷吉兵衛ノ代約ヲナシタル假証書ナリト裁判サレシハ是レ不法ノ裁判ナリト思考ス

但シ訴訟入費ノ義ハ成規ノ通り請求致度候事

上告人牧野德兵衛代人早川清兵衛明治十一年十月十五日ノ

陳述

一爰ニ東京上等裁判所ニ於テ被上告人佐伯勇助ヨリ提供セシ端書郵便ニ對シ上告狀ニ掲載セル辨解ハ致シ不申候

一前顯端書郵便御示ニ相成審聽ノ際法官ニ向ヒ上告人牧野德兵衛ヨリ渡シタルニ相違ナキ旨ヲ答ヘ候

一文意ニ付テノ辨解ハ致シ不申候

明治十二年四月廿九日

明治九年四月十七日付甲號証書ハ被告人佐伯勇助カ船代殘金ヲ拂フヘキヲ契約セシ有期ノ拂切符ナリ據テ原告人ハ此証書ヲ以テ得ヘキノ義務ヲ得ト請求致候

上告人 牧野德兵衛代人早川清兵衛カ明治十一年十月廿八

日陳述ノ要旨

一 上告要領第一條ニ引合証人吉兵衛ハ原告佐伯勇助即チ被上告人ノ代人トナリテ該船ヲ買受タル兼証書上ニ不相見云々トアリ以テ甲號証書ハ被上告人佐伯勇助カ船代殘金ヲ上告人德兵衛ニ拂フヘキヲ契約シタル拂切符ナレバ云々ト申陳セシハ拂切符ノ如キハ代人云々ヲ記スヘキ性質ノモノニ非ス況ヤ此切符甲號ノ如キハ被上告人佐伯勇助カ親シク上告人牧野德兵衛ニ船代殘金ヲ拂フヘキノ切符ナレハナリ

一 甲號証書ハ即チ前陳シ如キ拂切符ナレバ代人云々ノ肩書ヲ要セサルハ東京上等裁判所カ既ニ明知セラルル所ナリト信ス

被告 佐伯勇助代人時友一頁答辨ノ要領

第一條

甲號証書ハ被上告人佐伯勇助カ船代殘金ヲ德兵衛ニ拂フヘキヲ契約シタル拂切符ナレハ守谷吉兵衛カ佐伯勇助ノ代人タルヲ記載スヘキ謂レナシト上告スレモ決シテ然ラス何ソ守谷吉兵衛ノ買得セシ古廻船代殘金拂方ノ義務ヲ被上告人佐伯勇助ノ負擔スル理アラシヤ仮リニ之レヲ勇助カ買請人ト看做モ甲號証書其殘金貳百九拾圓ノ後証タシハ勇助カ實印ヲ要スヘキニ店判ヲ捺セシハ其古廻船ハ被上告人佐伯勇助ノ買得セシニ非カ然ヤ明ナリ上告人牧野德兵衛ニ於テモ店判ヲ捺セシ証書ヲ異議ナク領収シアルハ勇助カ古廻船ヲ買受人ニ非カルヲ認定スル所ナリ況ヤ乙號端書文中ニ未ダ兩人吉兵衛何等ノ返事モ無之云々御申傳被下度又御氣ノ毒様ナガラ至急御返事奉待等ノ數語ヲ掲ケシニハ非スヤ

又丙號証書ハ其宛名ノ守谷吉兵衛ノ肩書ニ佐伯勇助殿代人ノ七字

ヲ誤テ脱落セシトハ構言モ亦甚シ又其文中ニ右日限ニ殘金御渡無
 之上約定日限ノ後日ハ此受取書ハ已ニ廢物ナリトハ上告人カ單ニ
 守谷吉兵衛ニ關スルモノナレハ守谷吉兵衛カ被上告人勇助ノ代人
 トナリテ古廻船ヲ買受ケタルニ非カルヤ明カナリ

第二條
 上告人牧野德兵衛カ一箇ノ廻船ヲ以テ同時ニ兩人ニ賣渡シタリト
 見認メラレ民事ノ裁判アリシハ聽斷ノ定規ニ乖クトハ之レ上告人
 德兵衛ハ判文ノ主義ヲ誤解セシト云ハサルヲ得ス如何トナレハ東
 京上等裁判所ノ判語ハ之レカ比論ノ理由ヲ説明セラレシモノニシ
 テ上告人德兵衛カ重典賣者ナリト認定セラレシニ非ズハナリ

第三條
 凡郵便端書ハ小端紙ニシテ文意能ク得テ尽シ難ク上告人「牧野德兵衛」

ヨリ被上告人佐伯勇助ニ遺シタル端書郵便〔明治九年五月二十九日付〕モ亦其文
 意判然ナラサル朦朧タル文詞ナレモ其文中御尊店御受合ノ儀ニモ
 候間安心云々等ノ如キハ豪家ヲ尊稱スル商家ノ通義ナリ又御店ニ
 リ御申傳被下度トハ其前佐伯勇助ヨリ該船代金直引ノ義ニ付申越
 シタルニ其後何等ノ挨拶モ無之ヨリ即チ吉兵衛等ニ申傳吳ラレヨ
 トノ儀ナレハ該郵便タル佐伯勇助ニ直接ニ宛タルヲ瞭然ナリトア
 レモ若シ果シテ被上告人佐伯勇助カ眞ノ買主ニシテ其殘金ヲ相拂
 フノ義務ヲ負擔シタルモノナラハ直接ニ督促アルヘキ筈ナルニ左
 ハナクシテ第一條ニ答辨セシ如ク明治九年五月廿九日付郵便端書
 文中ニ他人ヲ指シタル文意アリ於茲被上告人佐伯勇助ハ該船ノ買
 主ニ非サルヲ判然ナリ

第四條

東京上等裁判所カ漫ニ賣買ノ當初ニ溯リ買主ノ誰タルヲ論シ而シテ甲號証書ハ被上告人佐伯勇助カ引合証人守谷吉兵衛ノ代約ヲナシタル假証書ナリトハ不法ノ裁判ナル旨上告スルモ甲號証書ハ引合証人守谷吉兵衛ノ依頼ニ因リ被上告人佐伯勇助ヨリ仮リニ差入タルモノナレハ賣買ノ當初ニ溯ラスンハ本件争訟ノ事理ヲ推究スルニ由ナキナリ前各條ニ答辨セシ如クナルニ付東京上等裁判所ノ裁判ハ公明至當ノ裁判ナリト思考ス

但シ訴訟入費ノ義ハ成規ノ通請求致度候事

被告 佐伯勇助代人時友二郎明治十二年四月廿九日口供

原告牧野徳兵衛へ渡シタル明治九年四月十七日附甲号証書ハ引合証人守谷吉兵衛ノ依頼ニ因リ被告人佐伯勇助ヨリ仮リニ差入タルモノナレハ右証書ノ船代殘金ヲ徳兵衛ニ拂フヘキ義務無之候

上告ノ主点ハ左ノ條件ナリトス

第一 守谷吉兵衛ハ佐伯勇助ノ代人タル廉証書ニ不相見トノ裁判ハ不當ナリトノコ上告第一條

第二 牧野徳兵衛カ重典賣セシト上等裁判所カ認メシナシハ其罪ハ刑事ニ付セラルヘキヲ民事ヲ以テ裁判サレシトノコ上告第二條

第三 明治九年五月廿九日付郵便端書ニ因リ船ノ買主ヲ定メラレ

シハ不當ナリトノコ上告第三條

第四 甲号証書ヲ仮リノ証書ト認メラレシハ不當ナリトノコ上告第四條

辨明

第一條

上告人ニ於テ甲號証書ハ勇助カ德兵衛ニ對シ船代殘金ヲ拂フヘキヲ契約セシ拂切符ナルニ依リ吉兵衛カ勇助ノ代人タルヲ記載スヘキ謂レナシト申立レヒ現ニ其証書上代人タルヲ見認ヘキモノナキヲ以テ原裁判所ニ於テ勇助カ吉兵衛ノ代人タル廉証書上不相見ト申渡セシハ不當ニ非ストス又丙号証書ニ右代人ノ廉記載ナキハ其証書ノ宛名吉兵衛ノ肩書ニ佐伯勇助殿代人ノ七字ヲ誤テ脱落セシ故ナリト申立レヒ右ハ德兵衛カ口頭ノ陳述ノミナルヲ以テ原裁判所カ之ヲ採用セサリシハ不當ニ非ストス又丙號証書ハ其文中ニ右日限ニ殘金御渡無之上ハ約定日限ノ後日ハ此証書可爲廢物候云々トアリテ明治九年五月五日日即約定以後ハ已ニ廢物ナルニ之ヲ採用サレ吉兵衛カ勇助ノ代人タル廉証書上不相見トノ裁判ハ不當ナリトノ旨申立レヒ上告人德兵衛ハ丙號証書ヲ以テ古廻船ヲ賣渡セシ

ニ付其殘金ヲ請求スルモノナレハ該証書ヲ廢物トセシコナキモノトス依テ原裁判所カ之ヲ採用セシハ不當ニ非ストス

第二條

上告人ハ原裁判所ノ判文ニ被告ハ一ノ古廻船ヲ同時ニ引合証人へ賣渡シ又原告人へ賣渡セシモノニ似タリ云々トアルニ對シ牧野德兵衛カ一箇ノ廻船ヲ兩人ニ賣渡タリト見認ラレシナラハ德兵衛ハ重典賣ノ罪ヲ犯セシ者ナルヲ以テ刑事ニ付セラレヘキヲ民事ヲ以テ裁判アリシハ聽斷ノ定規ニ乖キタル裁判ナリト申立レヒ右ハ原裁判所ノ判文ヲ誤解セシ上告ナリトス如何トナレハ右判文ニハ一ノ古廻船ヲ同時ニ引合証人ニ賣渡シ又原告人へ賣渡セシモノニ似タリトアリテ其甲丙兩証書ニ依レハ兩人ニ賣渡シタルカ如クナリト假リニ設ケ而シテ其下文ニ然レヒ一ノ物件ヲ同時ニ兩人ニ賣渡

スヲ得ヘカラス因テ買主ハ何レカ一名ト爲サ、ルヘカラス云々
ト結ヒシモノニシテ兩人ニ賣渡タリト決定セシモノニ非サレハナ
リ

第三條

上告人ハ明治九年五月廿九日付郵便端書ノ文ニ註解ヲ添ヘ上告ス
レモ右郵便書ハ原裁判所ニ於テ當時ノ原告勇助ヨリ差出シタル証
據物ナリシニ其節被告タリシ德兵衛ハ之ニ對シ一言ノ辨駁ヲモナ
サ、リシニ依リ原裁判所ニ於テ郵便ニ關スル勇助ノ申立ヲ採用セ
シハ不當ノ裁判ニ非ストス

第四條

上告人ハ甲號証書ハ佐伯勇助カ船代殘金ヲ拂フヘキヲ契約セシ有
期ノ拂切符ナリ據テ上告人德兵衛ハ此証書ヲ以テ得ヘキ義務ヲ得

ントスルニ原裁判所カ甲號証書ヲ假証書トサレシハ不法ナリトノ
旨上告セリ依テ原裁判所送致ノ書類ヲ徴スルニ佐伯勇助カ初審裁
判所ニ於テ出シタル本訴答辨書ニ森谷吉兵衛ト申者古船ヲ右德兵
衛ヨリ買取ル儀原証問ニ合ハサルニ付吉兵衛申ニハ本證書差入候
迄仮リニ我等名義ニテ差入吳候様依頼ニ付代理印ニ候ハ、變事モ
有之間敷ト存シ吉兵衛代理ニ相成仮證差入置候トアリテ勇助ハ承
諾ノ上甲號證書ヲ渡セシモノ、如シ而シテ其勇助カ東京上等裁判
所ニ出セシ控訴狀ニハ吉兵衛儀被告德兵衛ヲ同伴シテ罷越曩ニ頼
談セシ金額ノ内百五拾圓借受度旨申之ニ任セ即チ右金員ヲ原告佐
伯勇助ノ店先ニ於テ吉兵衛ニ渡シタル處吉兵衛ハ右金ヲ受取ルヤ
直チニ被告ニ對シ古廻船買取殘金取引ノ應接致シ居ルニ付原告ハ
奥座敷へ罷越タリ然ル處當日右吉兵衛實印ヲ携帯セサル趣ニテ當

時原告ノ雇人ニテ現今養子トナシタル幸吉事定吉ニ依リニ甲號証書ヲ認メサセ原告ノ店判ヲ押捺サセテ被告ニ渡シタル由吉兵衛等飯去ノ後承リ云々トアリテ勇助ハ甲號証書ニ付テ毫モ關係ナキモノ、如シ右兩様ノ申立ハ大ニ齟齬セルモノトス左スレハ原裁判所ニ於テハ右兩様ノ申立ヲ審理シ而シテ後ニ判決ヲ爲スヘキ筋ナリトス然ルチ原裁判所ニ於テ右等兩様齟齬ノ廉ヲ審究セザリシハ審理不盡ノ裁判ナリトス

右ノ筋合ナルチ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ大審院ニ於テ審理ヲ遂ル處

原告人德兵衛ハ明治十二年四月廿九日ノ口供ニ於テハ牧野德兵衛カ呈供セシ甲號証書ハ被告人佐伯勇助カ船代殘金ヲ拂フヘキチ契約セシ有期ノ拂切符ナリ據テ原告人ハ此証書ヲ以テ得ヘキ

ノ義務ヲ得ント請求セリ

被告人勇助ハ明治十二年四月廿九日ノ申立チ以テ甲號証書ハ引合証人守谷吉兵衛ノ依頼ニ因リ被告人佐伯勇助ヨリ依リニ差入タルモノナリト答辨セリ

右双方ノ申立ニ依リ判決スルヲ左ノ如シ

判決

勇助ニ於テ甲號証書ハ依リニ差入タリト云ト雖モ依リニ差入タルノ明文アルヲナシ左スレハ該証書明文ニ記載アル船代殘金ヲ德兵衛ニ拂フヘキノ義務ハ勇助ニ於テ免レサルモノナルチ以テ船代殘金ハ勇助ヨリ德兵衛ニ引渡スヘシ

但シ訴訟入費ハ佐伯勇助ヨリ牧野德兵衛ニ償却スヘシ

第八拾三號

○入會秣場實地立會取調一件上告ノ判文 明治十一年九月廿八日
三日 上告 明治十二年五月十日
申渡

茨城縣常陸國新治郡下

林村總代同村平民

原告

飯塚朝次郎

同總代同村鈴木仁平代

兼同村平民

全

三輪善十郎

同縣同國同郡金指村片

野村根古屋村總代金指

村平民

被告

小松崎彌三郎

同縣同國同郡片野村平

民

被告

綿引武平

水戸裁判所ノ判文

第一條

被告下林村ニ於テ元祿六年ノ裁許ハ字アリニ谷原級キ繼ケ谷津臺
迄ノ野地ニ止マリ字中庭西原等ノ野地ニ關係無之旨申立ト雖モ其
裁許狀ニ片野根小屋金指三ヶ村ノ者下林野内入會候儀分明也云々
又臺場ヨリ南方ノ野ニ入ル可カラスト記シ字立山跡諸除クノ外爭
論野地ノ區域ヲ揭示ナケレハ裁許狀中ノ下林野内トハ下林村ノ全
野地ヲ指シタルヤ明ナリ而シテ之ヲ裁許繪圖ニ照スニ字中庭西原
モ外野地同一ノ着色ナレハ當時中庭西原ノ野地ノアリタルハ亦疑

チ容レサルナリ加之實地ニ於テ原告ノ内金指村ヨリ中庭西原ニ至ルノ町敷之ヲ龜ヶ谷津臺等ニ至ルノ町敷ニ比スレハ其距離近ニ在リ然レハ其近キ原野ヲ超ヘ遠キ原野ノニ菊會スヘキ條理ナケレハ旁以テ中庭西原ノ原野原告三ヶ村ノ菊會林地ナルコト明白ナリトス依之原告ニ於テ被告ノ測量ヲ不當ナリトシ更ニ原被立會現在ノ林地實測ノ上其地引帳ニ証印セシメテ請求スルヲ被告ニ於テ之ヲ拒ムヘキ條理無之事

第二條

右ノ理由ナルヲ以テ原告請求ノ通達ニ履行可致事 明治十年十一月十二日 東京上等裁判所ノ審判

原告 下林村總代嶋志田直外一名控訴ノ要領 明治十年十月廿二日 水戸裁判所判文ニ字中庭西原ノ原野原告三ヶ村ノ菊會林地ナルコト

明白ナリトス依之原告ニ於テ被告ノ測量ヲ不當ナリトシ更ニ原被立會現在ノ林地實測ノ上其地引帳ニ証印セシメテ請求スルヲ被告ニ於テ之ヲ拒ムヘキ條理無之トスレモ抑原告下林村ノ現在林地ニ稱スル地所ハ字アサミ谷原及ヒ龜ヶ谷津臺ノニヶ所ニシテ此ニケ所ニアリテハ原被立會實地調査ハ固ヨリ拒マサル所ナレモ其中庭及ヒ西原ト被告カ稱シタル地所〔菊會ニアルヤナキヤハ〕ナルモノハ元祿年度裁許繪圖ニ據レハ入會秣場ト同色ノ地ニ有之ト雖モ其以降原告ニ於テ開墾培栽ノ勞費ヲ盡シ以テ耕地山林ト爲シ曩キニ允祿九年同十四年寶永六年ト連々高受シタリ然リト雖モ入會村々ニ協議及ヒシ証跡ハ之レナケレモ更ニ地租改正ニ方リ自村於テ實地調査ヲ遂ケ昨明治九年四月申地方官ニ呈シ既ニ悉ク人民所有ノ地トナリタルヲ以テ現今沃々タル耕地及ヒ森々タル山林トシテ